授業科目	神経障	害理学療		担当教員	武田 祐貴				
							<u> </u>		
対象年次・学期 	2年・後	シリカン		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	病態像	脳血管障害や脊髄損傷等、理学療法の主要対象疾患についての知識の統合をはかる。各疾患における病態像、障害像の理解を深め、それに応じた理学療法評価項目の選択と目標設定、治療計画立案までの知識・技術の統合をはかることを目的とする。							
到達目標		・脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患の病態、評価について説明できる。 ・理学療法治療の流れについて説明できる。							
テキスト・ 参考図書等	病気が見	見える	学専門分野 神経 Vol.7 脳・神経 療法マニュアル第3						
	評価が	方法	評価割合(%)		評価基準				
	試験		100						
評価方法・	レポート		0						
評価基準	小テスト	`		定期試験により評価	00				
	提出物		0						
	20010	や生理学		その他					
	回		履修主題			 内容			
履修主題・ 履修内容	<u> </u>	神経系	履修主題の全体像①	脳の解剖生理	履修に				
						0	実常について学		
	1	神経系	の全体像①	脳血管、運動	型について復習する。 関いな	。 およびその異			
	1 2	神経系脳血管	での全体像 ① での全体像 ② である (2) である (2) である (4) である	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の	型について復習する。 動と感覚の伝導路、	。 およびその異 i法の概要を与	ヹ ふ。		
	1 2 3	神経系脳血管	その全体像① (の全体像②) (できて) (概要)	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の	型について復習する 助と感覚の伝導路、 D病態および理学療	。 およびその異 法の概要を当	ヹ ぶ。 ヹ ぶ。		
	1 2 3 4	神経系脳血管	係の全体像① 係の全体像② 管障害 (概要) 管障害 (脳梗塞) 管障害 (脳出血)	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の 脳血管障害の	型について復習する 動と感覚の伝導路、 D病態および理学療 D病態および理学療	およびその異 法の概要を与 法の概要を与 法の概要を与	ヹ ぶ。 ヹ ぶ。		
	1 2 3 4 5	神経系 脳血管 脳血管 頭部外 片麻理	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳出血) ト傷 厚および高次脳機能	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の 脳血管障害の 頭部外傷の犯 を関係の犯	型について復習する。 かと感覚の伝導路、 の病態および理学療 の病態および理学療 の病態および理学療 の病態および理学療 病態と理学療法の概 が高次脳機能障害と	およびその野法の概要を与法の概要を与法の概要を与法の概要を与	学 ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 既要を学ぶ。		
	1 2 3 4 5 6	神経 脳 脳 頭 片害未神経 面 血 面 部 麻と梢経	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳出血) ト傷 厚および高次脳機能 学療法 神経障害、脱髄疾患 を性疾患、筋疾患	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の 脳血管障害の 頭部外傷の症 で	型について復習する 動と感覚の伝導路、 D病態および理学療 D病態および理学療 防態と理学療法の概 が高次脳機能障害と 書、脱髄疾患、神経 概要を学ぶ。	およびその異語法の概要を与話法の概要を与話法の概要を与います。を理学療法の概要を与いません。	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 既要を学ぶ。 筋疾患の病態と		
	1 2 3 4 5 6 7	神 脳 脳 頭 片害末神末 部	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳出血) ト傷 厚および高次脳機能 関連のである。 とのである。 とのでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでものでもの	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の 脳血管障害の 頭部外傷の症 で	型について復習する。 かと感覚の伝導路、 の病態および理学療 の病態および理学療 あ態と理学療法の概 が高次脳機能障害と は、脱髄疾患、神経 変更を学ぶ。 は、脱髄疾患、神経 の表記を発表。神経 の表記を発表を表記を表記を表記を表し、神経 の表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表	およびその異語法の概要を与話法の概要を与話法の概要を与います。を理学療法の概要を与いません。	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 既要を学ぶ。 筋疾患の病態と		
	1 2 3 4 5 6 7 8	神 脳 脳 頭 片害末神末神末神 系	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳出血) ト傷 厚および高次脳機能 単学療法 神経障害、脱髄疾患 神経障害、脱髄疾患	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の 脳血管障害の 頭部外傷の症	型について復習する。 動と感覚の伝導路、 D病態および理学療 D病態および理学療 大び理学療 大が、と理学療法の概 に、脱髄疾患、神経 を要を学ぶ。 を関連を表し、神経 を表し、神経 を表し、・神経 を表し、・神経 を表し、・神経 を表し、・神経 を表し、・神経 を表し、・神経 を表し、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	およびその異法の概要を与法の概要を与法の概要を与いるを理学が。を理学療法の概要を与理学療法の概要を与理学療法の概要を与えていません。	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9	神 脳 脳 顕 片害末神末神末神経 血 血 部 麻と梢経梢経梢経梢経	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳性塞) 管障害(脳と血) ト傷 早および高次脳機能 早および高次脳機能 早が療害、脱髄疾患 早経障害、脱髄疾患 神経障害、脱髄疾患 にとなる。 にとなる。 には疾患、筋疾患 神経障害、脱髄疾患 にとなる。 には疾患、筋疾患 神経障害、脱髄疾患 にとなる。	脳血管、運動 ぶ。 脳血管障害の 脳血管障害の 脳血管障害の 頭部外傷の症	型について復習する。 かと感覚の伝導路、 の病態および理学療 の病態および理学療 あ態と理学療法の概 が高次脳機能障害と に、脱髄疾患、神経 要を学ぶ。 害、脱髄疾患、神経 要を学ぶ。 害、脱髄疾患、神経 要を必ずる。	およびその異法の概要を与法の概要を与法の概要を与いるを理学が。を理学療法の概要を与理学療法の概要を与理学療法の概要を与えていません。	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	神 脳 脳 頭 片害末神末神 脊絡 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経 髄	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳と血) ト傷 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	脳血管、運動 ぶ。	型について復習する。 別と感覚の伝導路、 の病態および理学療の病態および理学療病態と理学療法の 対象と理学療法の 対象と理学療法の は要を形態が高い。 は要を脱野が高い。 は要を脱野が高い。 は要を脱野が高い。 は要を発生率、原因の は要を発生率、原因の はなな症状、合併症	およびその異法の概要を対法の概要を対法の概要を対法の概要を対象法の概要を対象法の概要を対象を理学療法の概要を対象を変性疾患、圣変性疾患、圣変性疾患、	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 状など)について		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	神 脳 脳 頭 片害末神末神 脊 脊経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経 髄 髄	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳を動きをして、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	脳血管、運動 ぶ。	型について復習する。 別と感覚の伝導路、 の病態および理学療 の病態および理学療 の病態および理学療 の病態および理学療 の病態と理学療法の に要を脱しいででである。 に要を脱しいでである。 に要を脱しいでである。 に要を脱しいでである。 に要を脱いである。 に要を脱いである。 に要を脱いである。 に要を必ずである。 に要をのでのである。 に要をのでのである。 に要をのでのである。 に要をのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでので	およびその異法の概要を対法の概要を対法の概要を対法の概要を対象法の概要を対象法の概要を対象を理学療法の概要を対象を変性疾患、圣変性疾患、圣変性疾患、	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 状など)について		
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	神 脳 脳 頭 片害末神末神 脊 脊 脊経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経 髄 髄 髄 髄 髄 質	係の全体像① 係の全体像② 管障害(概要) 管障害(脳梗塞) 管障害(脳を動きをして、 原はよび法。 原はおきないでは、 原はおきないでは、 原はおきないでは、 原はおきないでは、 の全体像② には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	脳血管障害の脳血管障害の脳血管障害の関連 部別 一個 管障害の 脳血管障害の 調節 中央 を は で は で は で は で は で は で は で は で は で は	型について復習する。 別と感覚の伝導路、 の病態および理学療の病態および理学療病態と理学療法の 対象と理学療法の 対象と理学療法の は要を形態が高い。 は要を脱野が高い。 は要を脱野が高い。 は要を脱野が高い。 は要を発生率、原因の は要を発生率、原因の はなな症状、合併症	およびその異 法の概要を与 法の概要を与 法の概要を与 法の概要を与 法の概要を与 理学療法の概 を 理学療法患、 を 変性疾患、 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 学ぶ。 既要を学ぶ。 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と 状など)について 解する について理解す		

授業科目	神経障害理学療法学A	担当教員	吉田香織	È	道内の総合病院に理学療法士と
		実務経験	有:■	無:□	して10年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			

授業科目	神経障	害理学療	§法学B	担当	á教員	武田 祐貴				
対象年次・学期	2年・後) 期		必修・追	選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業	(回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	病態像	脳血管障害や脊髄損傷等、理学療法の主要対象疾患についての知識の統合をはかる。各疾患における病態像、障害像の理解を深め、それに応じた理学療法評価項目の選択と目標設定、治療計画立案までの知識・技術の統合をはかることを目的とする。								
到達目標		・脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患の病態、評価について説明できる。 ・理学療法治療の流れについて説明できる。								
テキスト・ 参考図書等	病気が見	見える	学専門分野 神経 Vol.7 脳・神経 療法マニュアル第3	第2版						
	評価を	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポート	\	0							
評価基準	小テスト	\	0	定期試験は	こより評価	し60点/100点以上	を合格とする	00		
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の	解剖学や生理学の知識や理学療法評価法などと重複する話が多いので、しっかり復習して望むこと。									
留意事項	解剖学	や生埋字	4の知識や埋字療)	去評価法な 	:どと 重視す 	「る話が多いので、 	しっかり復沓 	iして望むこと。 		
留意事項 	解剖学	や王埋字	その知識や埋字療》 履修主題	去評価法な	どと重復す	「る話が多いので、 履修		がして望むこと。 		
留意事項				脳	の解剖生理	履修!について復習する	内容。			
留意事項 	回	神経系	履修主題	脳	の解剖生理 血管、運動	履修	内容。			
留意事項 	1	神経系神経系	履修主題	12日	の解剖生理 血管、運動	履修!について復習する	内容 。 およびその類	尾常について学		
留意事項 	1 2	神経系神経系脳血管	履修主題 係の全体像① 系の全体像②) 巡引 0.5℃ 1.20 1.20 1.20 1.20 1.20 1.20 1.20 1.20	の解剖生理 血管、運動 ・ 血管障害の	履修!について復習する	内容 。 およびその野 感法の概要を学	建常について学		
留意事項 	1 2 3	神経系神経系脳血管	履修主題 その全体像 ① その全体像 ② 管障害 (概要)	 	の解剖生理 血管、運動 血管障害の 血管障害の	履修!について復習する]と感覚の伝導路、 病態および理学療	内容 。 およびその 原法の概要を学 原法の概要を学	『 常について学 学ぶ。 学ぶ。		
留意事項 	1 2 3 4	神経系神経系脳血管	履修主題 「你の全体像① 「你の全体像② 「管管害(概要) 「管管害(脳梗塞) 「管管害(脳梗塞)	 	の解剖生理 血管、運動 血管障害の 血管障害の 血管障害の	履修 について復習する ひと感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療	内容 。 およびその異 法の概要を与 張法の概要を与 張法の概要を与	『 常について学 学ぶ。 学ぶ。		
留意事項 	1 2 3 4 5	神経経 細脳 脳 頭片 素 と の の の の の の の の の の の の の の の の の の	履修主題 をの全体像 ① をの全体像 ② を障害 (概要) を障害 (脳梗塞) を障害 (脳地血) ト傷 をおよび高次脳機能	脳(が) 脳(脳) 脳(関) 関語	の解剖生理 血管、運動 血管障害の 血管障害の 血管障害の 部外傷の病 麻痺および	履修 について復習する 」と感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療 態と理学療法の概 高次脳機能障害と	内容。 およびその異語法の概要を与います。 ないでは、おいでは、おいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	建常について学 さぶ。 さぶ。 さぶ。		
留意事項 	1 2 3 4 5 6	神経経 風 風 脳 顕 片害末神経 解 風 血 血 血 部 麻と梢経	履修主題 をの全体像① をの全体像② をでき(概要) をでき(脳梗塞) をでき(脳梗塞) をでき(脳・血) ・傷 をおよび高次脳機能 と学療法 ・経験を性疾患、筋疾患	脳 脳 脳 脳 脳 I 脳 I I I I I I I I I I I I I	の解剖生理 血管、運動 血管障害の 血管障害の 血管障害の 部外傷の病 麻痺および	履修 について復習する と感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療 態と理学療法の概 高次脳機能障害と 、脱髄疾患、神	内容。 およびその異語法の概要を与います。 ないでは、おいでは、おいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、な	建常について学 さぶ。 さぶ。 さぶ。		
留意事項 	1 2 3 4 5 6 7	神神 裕 脳 脳 頭 片害末神末神 閣 脳 脳 頭 片害末神末神経梢経梢経	履修主題 「「「「「「「「」」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「」」」 「「」 「「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	脳(脳) 脳(脳) 脳(脳) 脳(耳) まで ま、末理。 ま、末理。	の解剖 生理動血 血 部 麻 梢学 で に で に で に で に で で で は な に を は な で に で で ま な で に で で は な で に で で で で で で で で で で で で で で で で で	履修 について復習する 」と感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療 態と理学療法の概 態と理学療法の概 高次脳機能障害と 高、脱髄疾患、神経 要を学ぶ。 で、脱髄疾患、神経 で、脱髄疾患、神経 で、、神経 で、、、神経 で、、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	内容。およびその異語法の概要を与いまなの概要を与いまなの概要を与いまない概要を与いまない。を理学療法の概要を与いまない。を理学療法の概と変性疾患、	は常について学 さぶ。 さぶ。 さぶ。 数要を学ぶ。 筋疾患の病態と		
留意事項 	1 2 3 4 5 6 7	神神 脳 脳 頭 片害末神末神末 解 経 経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経梢	履修主題 「「「「「「「」」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「」」」 「「」 「「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	脳(脳(の解剖 三年 理動 一血 部 麻 梢学梢横学梢 療神療 海の で き 棚 き を で ま の よ 障の に を で の よ 障の に の ま 障の に で き で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で ま で で ま で ま で で ま で ま で ま で で ま で ま で で ま で ま で か ま で ま で	履修 について復習する と感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療 誘と理学療法の概 態と理学療法の概 意次脳機能障害と 高次脳機能障害と 一般で学ぶ。 で、脱髄疾患、神に 要を学ぶ。 で、脱髄疾患、神に で、脱髄疾患、神に で、神に 要を必ず、。 で、ここに で、 で、ここに で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	内容 。 およびその事 法の概要を与 法の概要を与 意法の概要を与 意法の概要を与 意法の概要を与 意法の概要を与 を 理学派。を 理学療法の概 経変性疾患、 経変性疾患、	建常について学 さぶ。 さぶ。 さぶ。 が疾患の病態と 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と		
留意事項 	1 2 3 4 5 6 7 8	神神 湖 脳 頭 片害末神末神末神経 経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経が変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を	履修主題 「「「「「「「「」」」」 「「「」」」 「「「」」」 「「」」」 「「」 「「」」 「「」 「「」」 「「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	脳 脳 脳 脳	の解剖 三年 理動 一血 部 麻 梢学梢横学梢 療神療 海の で き 棚 き を で ま の よ 障の に を で の よ 障の に の ま 障の に で き で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で で ま で ま で で ま で ま で で ま で ま で ま で で ま で ま で で ま で ま で か ま で ま で	履修 について復習する と感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療 誘と理学療法の概 態と理学療法の概 意次脳機能障害と 最、脱髄疾患、神 要を学ぶ。 、脱髄疾患、神 要を学ぶ。 、脱髄疾患、神 、要を学ぶ。 、脱髄疾患、神 、要を学ぶ。 、脱髄疾患、神 、要を学ぶ。 、脱髄疾患、神 、要を学ぶ。	内容 。 およびその事 法の概要を与 法の概要を与 意法の概要を与 意法の概要を与 意法の概要を与 意法の概要を与 を 理学派。を 理学療法の概 経変性疾患、 経変性疾患、	建常について学 さぶ。 さぶ。 さぶ。 が疾患の病態と 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と		
留意事項 	1 2 3 4 5 6 7 8 9	神 神 脳 脳 頭 片害末神末神末神 脊 経 経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経 髄 勇 勇 質 曾 曾 夕 瘦珥花姿花姿 摓	履修主題 をの全体像① をの全体像② ででき(概要) ででき(脳梗塞) ででき(脳梗塞) ででき、のをでき、のをでき、のをでき、のをでき、のをでき、のをできる。 はいるでは、は、はいるでは、は、はいるでは、は、はいは、は、はいは、は、はいは、は、はいるでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	脳(脳() 脳() 脳() 脳() 脳() 脳() 國() 以() 以() 以() 以() 以() 以() 以	の血の血血の部、麻・梢学梢学髄解・髄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	履修 について復習する について復習する 病態および理学療 病態および理学療 態と理学療法の概 態と理学療法の概 意次脳機疾患、神 に要を脱資が疾患、神 に要を脱資がある。 に要を脱資がある。 に要を発生率、原 でで、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、原	内容。およびその野活法の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要と対象をを受けた。をといるというでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大の	は常について学 さぶ。さぶ。さぶ。さぶ。がぶ。筋疾患の病態と筋疾患の病態と筋疾患の病態と状など)についてなど)について		
留意事項 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	神神 湖 脳 頭 片害末神末神末神 脊 脊経 経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経 髄 髄	履修主題 をの全体像① をの全体像② ででき(概要)ででき(脳梗塞)ででき(脳梗塞)ででき(脳が表すを性疾患を性疾患を性疾患を性疾患を性疾患を性疾患を性疾患を性疾患を性疾患を性疾患	脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳	の血の血血の部、麻・梢学梢学髄解・髄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	履修 について復習する と感覚の伝導路、 病態および理学療 病態および理学療 態と理学療法の構 態と理学療 態と理学療 態と現際を に要を脱学派。 に要を脱学派。 に要を に要を で、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	内容。およびその野活法の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要を与うでは、大の概要と対象をを受けた。をといるというでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大のでは、大の	は常について学 さぶ。さぶ。さぶ。さぶ。がぶ。筋疾患の病態と筋疾患の病態と筋疾患の病態と状など)についてなど)について		
留意事項 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	神 神 脳 脳 頭 片害末神末神 脊 脊 脊経 経 血 血 血 部 麻と梢経梢経梢経 髄 髄 髄 髄	履修主題 の全体像① (の全体像② (で)	脳脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 脳 頭 片 末理・末理・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	の血。血血の部、麻、梢学梢学髄解髄節の血。血血の部、麻、梢学梢学髄解髄節の管管障ののお経法経法経法経済のののがです。 のいま のいま での は でいき でんしん でいき でんしん でいき でんしん でいき でんしん かいこう はいき でんしん かいこう はいき	履修 について復習する について復習する 病態および理学療 病態および理学療 態と理学療法の概 態と理学療法の概 意次脳機疾患、神 に要を脱資が疾患、神 に要を脱資がある。 に要を脱資がある。 に要を発生率、原 でで、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、は、一般である。 に要を発生を、原	内容。およびその類点法の概要を与うに表して、 では、ない概要を与うにできませる。をは、では、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	は常について学 さぶ。 さぶ。 さぶ。 をきぶ。 筋疾患の病態と 筋疾患の病態と がなど)について など)について など		

授業科目	神経障害理学療法学B	担当教員	吉田香織	ì	道内の総合病院に理学療法士と
		実務 経験	有:■	無:□	して10年以上勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	精神障害	害学A			担当教員	鵜飼 渉	鵜飼 渉		
対象年次・学期	2年・前	期		必但	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的)基本症状と治療の理解に必要なを			見を織り交ぜな	がら 講義 する。!	- リハビリテーショ	
到達目標	各種精神疾患の基本症状と治療法について理解する。								
テキスト・ 参考図書等			デ・作業療法学 情神医学	専門基	基礎分野 精神	医学 第4版堆	· · · · · · · · · · · · · ·		
	評価が	方法	評価割合(%)			評価	基準		
	試験		100						
評価方法・	レポート		0						
評価基準	小テスト	`	0	定期記	式験により評価	する。			
	提出物		0						
 履修上の 留意事項			0 心理的な視点、 作業療法の治療				精神障害を学ぶ	。精神医学の知	
			履修主題				夏修内容		
履修内容	1 2	類、生精神医	医学総論、成因・ E物学的精神医学 医学総論、成因・	: 分	脆弱性モデル 精神医学とは	、概念、歴史	、3つの成因につ 、3つの成因につ		
	3	気分隆	E物学的精神医学 章害、人格障害、)生物学			動の障害、性 、持続性気分	の障害、気分障 障害、経過及び	害の概念、うつ 予後、治療と援	
	4		章害、人格障害、)生物学	感情	人格とは、行	動の障害、性 、持続性気分	の障害、気分障 障害、経過及び		
	5	統合纠				症状の捉え方 治療とリハビリ		予後、社会生活	
	6	統合组			成因、疫学、 面での障害、	症状の捉え方 治療とリハビ!	、診断、経過と リテーション	予後、社会生活	
	7	神経性	‡障害、心身症		とするもの、	ストレス関連障	き書、解離・転換	るもの強迫を中心 愛を中心とするも 身症としての諸疾	
	8	神経性	 挂障害、心身症		とするもの、	ストレス関連障	き書、解離・転換	るもの強迫を中心 愛を中心とするも 身症としての諸疾	
	9	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症 アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコー							
	10	アルコ 存症	ール依存症、薬	—— 物依	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ				
	11	児童・ 害	·青年期障害、発	達障	障害、心理的		は、 特異的発達	、その他の精神 障害、広汎性発	

12	児童・青年期障害、発達障 害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神 障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発 達障害、治療とリハビリテーション
13	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
14	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルへルス

授業科目	精神障害学A	担当教員	川村舞		市内医科大学にて臨床心理士と して20年以上勤務。札幌市スク
323111		実務経験	有∶■	無:□	ールカウンセラーとして10年以上 従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	精神障害	售学B			担当教員	鵜飼 渉		
対象年次・学期	2年・前	期		必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	I		D基本症状と治療 の理解に必要な基			見を織り交ぜながら	講義する。!	Jハビリテーショ
到達目標	 各種精神疾患の基本症状と治療法について理解する。 							
テキスト・ 参考図書等	標準理学			専門基	基礎分野 精神	医学 第4版増補	版	
	評価方	法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		100					
評価方法・	レポート	•	0					
評価基準	小テスト	•	0	定期記	式験により評価	する。		
	提出物		0					
尼收上 4	その他		0 .v. tm (/2, /2) ==	71 -	ᅺᄼᇄᆠᅒᅜ		加辛士兴兴	ᄩᅓᄹᄽᇬᄱ
履修上の 留意事項			心理的な視点、作業療法の治療			、ら精神疾患や精神 。	神障者を子ぶる	。 有仲医子の知
履修主題・	0		履修主題			履修		
履修内容	1		医学総論、成因・ E物学的精神医学		│ 精神医学とは │ 脆弱性モデル	、概念、歴史、3	つの成因につ	いて、ストレス
	2	精神图	医学総論、成因・	分	精神医学とは	、概念、歴史、3	つの成因につ	いて、ストレス
			上物学的精神医学		脆弱性モデル	動の障害、性の障	害、気分障	実の概念、うつ
	3		章害、人格障害、)生物学 ————————————————————————————————————	感情	病、操うつ病 助、リハビリ	、持続性気分障割 テーション	ミ、経過及び	予後、治療と援
	4		章害、人格障害、)生物学	感情		動の障害、性の障 i、持続性気分障害 テーション		
	5	統合領	卡調症			症状の捉え方、診 治療とリハビリテ		予後、社会生活
	6	統合領	 長調症		成因、疫学、 面での障害、	症状の捉え方、診 治療とリハビリテ	诊断、経過と −ション	
	7	神経性	 挂障害、心身症		とするもの、	方、恐怖及び不安 ストレス関連障害。 性、その他、定義	解離・転換	ぬを中心とするも
	8	神経性	 挂障害、心身症		とするもの、	方、恐怖及び不安 ストレス関連障害、 性、その他、定義	解離・転換	やを中心とするも
	9	アルコ 存症	Ⅰ−ル依存症、薬	物依	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ			
	10	アルニ 存症	ι−ル依存症、薬	物依	アルコール依 症の子供の問 抗不安薬、有 関連、地域ネ	酒による酩酊と乱 存症を基盤に生じ 題、地域ネットワ 5機溶剤・覚せいる シャトワークとチー	る精神障害、 一ク、家族の リ・大麻・モ ムアプローチ	アルコール依存 D問題、睡眠薬・ ルヒネ・コカイン
	11	害	·青年期障害、発		精神・心理発 障害、心理的 達障害、治療	経達の特性、行動及 1発達の障害とは、 ほとリハビリテーシ	ひ情緒障害 特異的発達 ョン	、その他の精神 障害、広汎性発
	12	児童・害	・青年期障害、発	達障		経達の特性、行動及 1発達の障害とは、		

			達障害、治療とリハビリテーション
	13	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
-	14	心理検査、心理療法、メン タルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検 査、各種心理療法とその実際
	15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルへルス

授業科目	│ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │	担当教員	川村舞		市内医科大学にて臨床心理士と して20年以上勤務。札幌市スク
323111	18111744 3 5	実務経験	有∶■	無:□	ールカウンセラーとして10年以上 従事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	内部障害	害学A			担当教員	担当教員 鬼原 彰				
対象年次・学期	2年・通	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	どのよう	・人間の基本的構造とその機能をコントロールする3つのシステムである神経系、内分泌系、免疫系がどのようにして細胞レベル、組織レベル、個体レベルの機能維持とかかわりを有しているかを学び、それをリハビリテーションに応用する。リハビリテーションにおいても分化と統合の時代となっている。								
到達目標	・各臓	・各臓器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、理学療法に応用できる。								
テキスト・ 参考図書等	標準理	学療法学	学・作業療法学	専門基	基礎分野 内科	学 第4版				
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポート	-	0		DEA					
計画基準	小テスト		0	定期記	式験により評価	する。				
	提出物		0							
履修上の 留意事項		ず、予習	復習をすること。							
履修主題・	0		履修主題		履修内容					
履修内容	1	生体学	全総論		生物の進化とそのコントロール機構					
	2	動物と 疾患	しての骨・関節	・筋	骨・関節・筋の機能と疾患の診断と治療					
	3	ントロ			脳・神経系機能と疾患の診断・治療					
	4	ニュー ントロ	·ロンによる細胞ヤ ·ール	生コ	脳・神経系機能と疾患の診断・治療					
	5	ホルモ ール	ンによる液性コン	/トロ	内分泌の機能と疾患の診断・治療					
	6	ホルモ ール	ンによる液性コン	/	内分泌の機能	と疾患の診断・治	療			
	7	るコン	(細胞性・液性)		免疫の機能と	アレルギー・膠原	病の診断・治	合療 (白血球) 		
	8	1	(細胞性・液性) トロール	によ	免疫の機能と	アレルギー・膠原	病の診断・治	治療(白血球)		
	9	消化器	器系疾患		消化器(消化管	管・肝・胆・膵)の	の機能と疾患	の診断・治療		
	10	消化器	器系疾患		消化器 (消化	2管・肝・胆・膵)	の機能と疾患	患の診断・治療		
	11	代謝系	系疾患 		代謝疾患の診	断・治療				
	12	代謝系	灰 患		代謝疾患の診	断・治療				
	13	循環器	器系疾患		循環器 (呼吸	と器・心血管・腎)	の機能と疾患	患の診断・治療		
	14	循環器	器系疾患		循環器 (呼吸	と器・心血管・腎)	の機能と疾患	患の診断・治療		
	15	血液造	造血器疾患		血液の機能と	疾患の診断・治療	(赤血球・1	血小板)		

			T		
+≅ ₩ 1/ □	小加味中兴	担当教員	鬼原彰		市内の医科大学にて内科学教授
授業科目	内部障害学A	実務 経験	有 : ■	無:□	として教育に従事、その後、市内 病院で内科医として勤務。
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	内部障	害学B			担当教員	鬼原 彰			
対象年次・学期	2年・通	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的	どのよう	うにして	細胞レベル、組織	戦レベル	、 個体レベルの	Pのシステムであるれ D機能維持とかかわ ンにおいても分化。	りを有してい	vるかを 学 び、そ	
到達目標	・各臓	器系統別	削に疾患の成り立	ちと診	断・治療上の要	夏点を学び、理学療	憲法に応用で	きる。	
テキスト・参考図書等	標準理	学療法学	学・作業療法学	専門基	基礎分野 内科	学 第4版			
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポート		0		DEA :-				
評価基準	小テスト		0	定期記	式験により評価	する。			
	提出物		0	-					
履修上の 留意事項		他 0							
履修主題・	0		履修主題			履修 履	 内容		
履修内容	1	生体学			生物の進化と	 そのコントロール材	 幾構		
	2	動物と 疾患	しての骨・関節	・筋	骨・関節・筋	の機能と疾患の診	断・治療		
	3	ントロ			脳・神経系機	経系機能と疾患の診断・治療			
	4	ニューントロ	・ロンによる細胞† 一ル	生コ	脳・神経系機	系機能と疾患の診断・治療			
	5	ホルモ ール	·ンによる液性コン	ノトロ	内分泌の機能	機能と疾患の診断・治療			
	6	ホルモ ール	ンによる液性コン	ノトロ	内分泌の機能	と疾患の診断・治	療		
	7	るコン	(細胞性・液性) トロール		免疫の機能と	アレルギー・膠原	病の診断・治	洽療(白血球)	
	8	1	(細胞性・液性) トロール	によ	免疫の機能と	アレルギー・膠原	病の診断・治	洽療(白血球)	
	9	消化器	器系疾患		消化器(消化管	管・肝・胆・膵) ♂	の機能と疾患	の診断・治療	
	10	消化器	紧 系疾患		消化器 (消化	2管・肝・胆・膵)	の機能と疾患	患の診断・治療	
	11	代謝系	疾患		代謝疾患の診	断・治療			
	12	代謝系	· 疾患		代謝疾患の診	断・治療			
	13	循環器	紧 系疾患		循環器 (呼吸	器・心血管・腎)	の機能と疾患	患の診断・治療	
	14	循環器	紧 系疾患		循環器 (呼吸	器・心血管・腎)	の機能と疾患	患の診断・治療	
	15	血液造	造血器疾患		血液の機能と	疾患の診断・治療	(赤血球・[血小板)	

			Τ		
+≅ ₩1/ □	小如阵字 类D	担当教員	鬼原彰		市内の医科大学にて内科学教授
授業科目	内部障害学B	実務経験	有 : ■	無:□	として教育に従事、その後、市内 病院で内科医として勤務。
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	内部障害	害理学 療	療法学A	担当教員	横野 裕行				
対象年次・学期	2年・後	期		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	80	時間数	15時間		
授業目的	糖尿病	・慢性腎	腎臓病の基礎知識	と合併症、運動療法・	やリスク管理、運動	が処方につい	て学ぶ。		
到達目標	糖尿病	・慢性腎	腎臓病の運動療法	とリスク管理について	説明できる。				
テキスト・参考図書等	病気が見える 糖尿病・代謝・内分泌 Vol 3 第5版 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 フィジカルアセスメント完全攻略Book								
	評価方	法	評価割合(%)		評価基準				
	試験		100						
評価方法・	レポート	•	0	定期試験100点満点	由60占以上左今故	レー 木試験	金本60占に港たむ		
評価基準	小テスト	•	Λ.	いものは再試験にて6			そでの無に両だな		
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	わからな 2年次 履	い所は 修の内	質問し早めに解決 部障害学、1年次	る限りその時間のう すること。 履修の解剖学・生理 で丸暗記ではなく意	学がベースとなるだ				
履修主題・	0		履修主題		履修内容				
履修内容	1		ンテーション・代 こついて	謝代謝の復習、	代謝の復習、代謝障害、肥満について学習する				
	2	糖尿症	 	糖尿病の病態	糖尿病の病態・検査・治療方法について学習する				
	3	糖尿症	あの合併症	糖尿病の合併る	糖尿病の合併症やその評価方法、リスク管理について学習する				
	4	糖尿症	ちの治療		糖尿病の食事療法・運動療法の方法について学習する				
	5	行動変	变容	動を継続させ	糖尿病疾患に対して、ただ理学療法をするだけではなく、行動を継続させる手法を理解する				
	6	腎臓·	· 腎不全 総論	腎臓について 学習する	腎臓について、慢性腎臓病の病態・検査・治療方法について				
	7	腎不全	Eの理学療法		評価・理学療法の				
	8	症例核	食討・評価体験	糖尿病・慢性をする	糖尿病・慢性腎臓病の代表的な評価を経験する。症例検討 をする				

授業科目	内部障害理学療法学A	担当教員	横野裕行	7	道内・外の病院で理学療法士と して8年勤務
		実務経験	有 : ■	無:□	U CO+3/1/17
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	内部障害	害理学 療	療法学B	担当教員	横野 裕行				
対象年次・学期	2年・後	期		必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態				授業回数	80	時間数	15時間		
授業目的	糖尿病	・慢性腎	腎臓病の基礎知識	と合併症、運動療法・	やリスク管理、運動	が処方につい	て学ぶ。		
到達目標	糖尿病	・慢性腎	腎臓病の運動療法	とリスク管理について	説明できる。				
テキスト・参考図書等	病気が見える 糖尿病・代謝・内分泌 Vol 3 第5版 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学 フィジカルアセスメント完全攻略Book								
	評価方	方法	評価割合(%)		評価基準				
	試験		100						
評価方法・	レポート	•	0	定期試験100点満点	中60占以上を会校	レー 木試験	金で60占に満たか		
評価基準	小テスト		Λ Ι	いものは再試験にて6			そこの無に何/こん		
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	わからな 2年次 履	い所は 修の内	質問し早めに解決 部障害学、1年次	る限りその時間のう すること。 履修の解剖学・生理 で丸暗記ではなく意	学がベースとなるだ				
履修主題・			履修主題		履修内容				
履修内容	1		:ンテーション・代 こついて	謝代謝の復習、	代謝の復習、代謝障害、肥満について学習する				
	2	糖尿症	 「総論	糖尿病の病態	糖尿病の病態・検査・治療方法について学習する				
	3	糖尿症	あの合併症	糖尿病の合併る	糖尿病の合併症やその評価方法、リスク管理について学習する				
	4	糖尿症	気の治療		療法・運動療法 の				
	5	行動変	 变容	動を継続させ	糖尿病疾患に対して、ただ理学療法をするだけではなく、行動を継続させる手法を理解する				
	6	腎臓·	腎不全 総論	腎臓について 学習する	、慢性腎臓病の病	態・検査・治	台療方法について		
	7	腎不全	€の理学療法		評価・理学療法の				
	8	症例核	検討・評価体験	糖尿病・慢性をする	 腎臓病の代表的な	評価を経験で	する。 症例検討 		

授業科目	内部障害理学療法学B	担当教員	横野裕行	-	道内・外の病院で理学療法士と して8年勤務
		実務 経験	有∶■	無:□	しての牛乳が
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		 担当 教員			
		実務経験			
		 担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		小工河大			

授業科目	日常生活	舌活動写	E習A		担当教員	竹中 譲	#将			
対象年次・学期	2年・通	年		必值	冬・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	23回		時間数	45時間	
授業目的			障がい像を明確に を実践する。また、					去を考える。	さらに安全に介	
到達目標	② 障が	いを持つ	動を安全で円滑に O人の日常生活活 その方法、定義に	動方法	を説明できる。					
テキスト・ 参考図書等			アルテキスト AI 93版 ADLその基		。応用					
	評価が	評価方法 評価割合(%) 評価基準								
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポート		0		は筆記試験80点 気に満たないもの				を行い、本試験 験100点満点中	
計逥基华	小テスト		0	60点以	以上を合格とす	る。			3	
	提出物		0	俊期記	拭験は筆記試験	IUU点滴点	スで評価を	⊻仃フ∘		
 履修上の	この講		<u> </u>							
留意事項	作 がなる	されてい	るか、また 身体 機	能や環	環境の変化によ [.] 	ってどう影	響するの	か常に意識す	けるよう 心 がける	
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	オリエ	ンテーション							
	2	動作約	東習の基本		ADL訓練、基 果的な練習・				運動を活用し効	
	3	ポジシ	ョニング		ポジショニン	グ(良肢位	な) につい	てその方法を	き学ぶ	
	4	ADL部	严価法		ADL評価法に	ついて学ん	ζï			
	5	ADL部	平価法		ADL評価法に	ついて学ん	ζï			
	6	ADL部	平価法		ADL評価の演習、BI、FIM					
	7	ADLe	x 総論		ADLex トレーニング方法を学ぶ					
	8	関節リ	リウマチのADL		関節リウマチのADLについて学ぶ					
	9	変形性	生関節症のADL		変形性関節症のADLについて学ぶ					
	10		骨折のADL		下肢骨折のADLについて学ぶ					
	11	移動剤	捕助具の選択、操 - 	作に	移動補助具の選択、操作について学ぶ					
	12	神経質	伤疾患におけるAD	L	パーキンソン	病に対する	SADL			
	13	複合重	加作練習のポイン	\	複合動作の練	習方法に	ついて学ん	Šĩ		
	14	脳神経	経疾患のADL		脳卒中片麻痺	患者にお	けるADL			
	15	脳神絲	経疾患のADL		脳卒中片麻痺	患者にお	けるADL			
	16	脳卒中	P片麻痺のADL		脳卒中片麻痺	MADL に	ついて学ん	ζĭ		
	17	脳卒中	P片麻痺のADL		脳卒中片麻痺	MADL に	ついて学ん	<u>S</u> ;		
	18	脳卒中片麻痺のADL			脳卒中片麻痺	MADL に	ついて学ん	ζï		
	19	脳卒中片麻痺のADL			脳卒中片麻痺	MADL に	ついて学ん	ζï		
	20	脊髄損傷のADL			脊髄損傷のADLについて学ぶ					
	21	脊髄排	員傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ						
	22	脊髄排	員傷のADL		脊髄損傷のA	DLについっ	て学ぶ			
	23	脊髄排	員傷のADL		脊髄損傷のA	DLについっ	て学ぶ			

授業科目	日常生活活動実習A	担当教員	吉田香織	È	道内の総合病院に理学療法士と
		実務 経験 	有:■	無:□	して10年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			

授業科目	日常生活	活活動写	Ę習B		担当教員	竹中 謙将			
対象年次・学期	2年・通	年		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	23回	時間数	45時間	
授業目的						た日常生活活動方 全学び、演習する。		さらに安全に介	
到達目標	② 障が	いを持つ	動を安全で円滑に 0人の日常生活活 その方法、定義に	動方法	を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	考図書等 姿勢と動作 第3版 ADLその基礎から応用								
	評価が	評価方法 評価割合(%) 評価基準							
	試験		100						
評価方法・	レポート		0			(と実技試験20点の のは再試験にて		を行い、本試験 【験100点満点中	
評価基準	小テスト		0	60点に	以上を合格とす	る。			
	提出物		0	後期記	式験は筆記試験	:100点満点で評価	を行う。		
履修上の 留意事項	この講郭		<u> </u>) 応用力、想像力が重要になります。普段の生活でどのような活動、 機能や環境の変化によってどう影響するのか常に意識するよう心がけ					
履修主題・	回		履修主題			履修	内容		
履修内容	1	オリエ	ンテーション						
	2	動作約	棟習の基本			本動作訓練を進む 指導方法について		な運動を活用し効	
	3	ポジシ	ョニング		ポジショニン	グ (良肢位) につ	いてその方法	を学ぶ	
	4	ADL部	平価法		ADL評価法に	ついて学ぶ			
	5	ADL部	平価法		ADL評価法について学ぶ				
	6	ADL部	平価法		ADL評価法について学ぶ				
	7	ADLe	x 総論		ADLex トレーニングについて学ぶ				
	8	関節リ	リウマチのADL		関節リウマチのADLについて学ぶ				
	9	変形性	生関節症のADL		変形性関節症のADLについて学ぶ				
	10		骨折のADL		下肢骨折のADLについて学ぶ				
	11	移動神	#助具の選択、操	作に 	移動補助具の	選択、操作につい	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	12	神経角	筋疾患のADL		パーキンソン	病のADLについて	 学ぶ		
	13	複合重	加作練習のポイン	\	複合動作の網	習方法について学	<u> </u>		
	14	脳神經	経疾患のADL		脳卒中片麻痺	P のADL			
	15	脳神経	経疾患のADL		脳卒中片麻痺	P のADL			
	16	脳卒中	P片麻痺のADL		脳卒中片麻痺	車のADLについて学	<u></u>		
	17	脳卒中	P片麻痺のADL		脳卒中片麻痺	のADLについて学	<u>*</u> .Si		
	18	脳卒中片麻痺のADL			脳卒中片麻痺	のADLについて学	<u>*</u> .Si		
	19	脳卒中片麻痺のADL			脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ				
	20	脊髄損	員傷のADL		脊髄損傷のA	DLについて学ぶ			
	21	脊髄排	員傷のADL		脊髄損傷のA	DLについて学ぶ			
	22	脊髄攅	員傷のADL		脊髄損傷のA	DLについて学ぶ			

授業科目	日常生活活動実習B	担当教員	古田香織	Ì	道内の総合病院に理学療法士と
JANTIA .		実務 経験	有∶■	無:□	して10年以上勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	発達障害学A			担当教員	佐々木 智教	佐 々木 智教			
対象年次・学期	2年・後	 り期		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	8回	時間数	15時間	
授業目的						徴、子ども特有の? 児に対する医療の			
到達目標	子ども\$	持有の疫	患・病態について	理解	する。				
テキスト・ 参考図書等	言語聴	覚士のだ	-めの基礎知識、A	小児科	学・発達障害等	学 第3版			
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポート	<u> </u>	0	定期的	 試験 (100点満点) により60点以上を合格とする。				
評価基準						黒)により60点以上 験を受験し、60点			
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項	医療を表	志す者と	しての自覚を持ち	5、学習	冒意欲を保って	授業に臨むこと。			
履修主題・	回		履修主題			履修内容			
履修内容	1	オリエ科学権		・児	小児科学とは。小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療 における理学療法士・作業療法士の役割。				
	2	1	· 周産期、新生児	・乳	胎芽病と胎児	病、子宮内発育不	全、周産期	障害など。出生	
	3	遺伝纲	文 実 患・先天異常 、 てんかん	神経	遺伝性疾患、	から退院まで。乳児の発達。乳児健診 遺伝性疾患、染色体異常、奇形、先天異常。神経・筋疾 患、てんかん、水頭症、中枢神経奇形、頭部外傷			
	4	その他	の疾患		循環器、呼吸	大器、消化器、代設 泌尿器、脳腫瘍			
	5		発達と成長、運 ・発達障害	動・		健常な発達。小児 L性発達障害、注意			
	6	重症心	少身障害			の特徴、側湾、姿 、呼吸障害、気管			
	7	医療的	りケア		在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看護と訪問リハの連携、発達支援としての外来リハ。				
	8	小児の)在宅医療		小児の在宅医療における理学療法士・作業療法士の役割と期待するもの。				

授業科目	発達障害学A	担当教員	佐 々木 智	3教	市内小児施設にて理学療法士と して10年以上勤務
		実務 経験	有:■	無:□	(C)
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	発達障	害学B			担当教員	佐々木 智教				
対象年次・学期	2年・後	 り期		必值	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	8回 時間数 15時間				
授業目的						徴、子ども特有の? 児に対する医療の				
到達目標	子ども\$	持有の疫	患・病態についる	理解	する。					
テキスト・ 参考図書等	言語聴	覚士のだ	-めの基礎知識、 ₁	小児科	学・発達障害等	学 第3版				
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポート	<u> </u>	0	定期的	#騇 (100占港)	5) 17 トN60占以	トた 会 格レオ	z		
評価基準	小テスト	<u> </u>	0		明試験 (100点満点) により60点以上を合格とする。 点未満の者は再試験を受験し、60点以上を合格とする。					
	提出物		0							
	その他		0							
履修上の 留意事項	医療を表	志す者と	しての自覚を持ち	5、学習	冒意欲を保って	授業に臨むこと。				
履修主題・	回		履修主題			履修 履				
履修内容	1	オリエ 科学相	ンテーション、小 SE論	・児		。小児科学を取り 療法士・作業療法		5化。小児医療		
	2	1	· 周産期、新生児	・乳	胎芽病と胎児	病、子宮内発育不 。乳児の発達。乳	全、周産期	障害など。出生		
	3	遺伝纲	文 実 患・先天異常 、 てんかん	神経	遺伝性疾患、	染色体異常、奇用 、水頭症、中枢神	彡 、先天異常			
	4	その他	の疾患		循環器、呼吸	大器、消化器、代設 泌尿器、脳腫瘍				
	5		発達と成長、運 ・発達障害	動・		健常な発達。小児 L性発達障害、注意				
	6	重症心	少身障害			の特徴、側湾、姿 、呼吸障害、気管				
	7	医療的	りケア			ケアを必要とする。 連携、発達支援と				
	8	小児の)在宅医療		小児の在宅医 期待するもの。	療における理学療 。	法士・作業療	療法士の役割と		

授業科目	発達障害学B	担当教員	佐 々木 智	計 教	市内小児施設にて理学療法士と して10年以上勤務
		実務経験	有∶■	無:□	O C 10 + 以工±nan
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	物理療法	!療法A			担当教員	吉田 智子		
対象年次・学期	2年・後	 b期		必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的			こついて、原理・生 本的手技を学ぶ。	 E理学	的作用・効果の		¥する。安全	かつ効果的に使
到達目標	機器の抽機器の抽機器の抽機器の	操作手順	頁・原理・目的・3 頁を理解する。 ∶手技を実施できる		適応・リスク管	管理を理解し説明・	・記述できる	0
テキスト・参考図書等	最新理學	学療法学	学講座 物理療法	学 ([医歯薬出版株式	总 会社)		
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		100					
評価方法・	レポート							
評価基準	小テスト	`		定期記	試験にて評価す	る。		
	提出物							
履修上の 留意事項	701B							
屋收十晒。			履修主題				 内容	
履修主題・ 履修内容	1			理		ける物理療法の役	割・分類、物	物理療法の対象
	2	療法総物理療	^{窓論} §法の臨床適応と言	平価		整理し、理解する 象となる病態の整	理し、その評	平価方法を確認す
	3	温熱療	景法			理、目的、生理学	学的効果と適	応・禁忌につい
	4		療法各論:ホット/ パラフィン、赤外線		各種温熱療法	の適応・禁忌、実	尾施手順につ	いて
	5	寒冷療	法		寒冷療法の原 て	[理、目的、生理 学	色的効果と適	応・禁忌につい
	6	寒冷療	法各論		各種寒冷療法	の適応・禁忌・実	運施手順につ	いて
	7	電磁源 短波)	按療法(超短波 、	亟超	施手順につい			
	8	超音源	皮療法		施手順につい			
	9	電気刺	削激療法			の原理、目的、生 スク管理について	E埋字的効果	と適心・禁忌、
	10	電気刺	激療法各論		各種電気刺激	療法の適応・禁忌	忌、実施手順	について
	11	光線療	法		手順について			
	12	牽引癢	§法、圧迫療法		手順について 圧迫療法の原 手順について		学的効果と適	応・禁忌、実施
	13	水治療			τ	[理、目的、生理 学		
	14		法各論		各種水治療法	の適応・禁忌、第	尾施手順につ	いて
	15	物理療 め	憲法の臨床応用、 る	まと	物理療法の臨	床応用について		

授業科目	物理療法A	担当教員	吉田智子	2	市内整形外科で理学療法士とし て10年以上勤務
		実務 経験	有∶■	無:□	(10十八工到初
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	物理療法	去B			担当教員	吉田智子			
対象年次・学期	2年・後	類		必作	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的			こついて、原理・5 本的手技を学ぶ。	生理学	的作用・効果の	の機序について理解	¥する。安全#	かつ効果的に使	
到達目標	機器の	操作手順	頁・原理・目的・ 頁を理解する。 :手技を実施できる		適応・リスク管	管理を理解し説明	・記述できる。)	
テキスト・参考図書等	最新理	学療法学	学講座 物理療法	学 ([医歯薬出版株式	た会社)			
	評価フ	 方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポート	`	0		定期試験にて評価する。				
評価基準	小テスト	`	0	定期記					
	提出物		0						
	その他		0						
履修上の 留意事項									
履修主題・	回		履修主題			履修[内容		
履修内容	1	オリエ 療法約	ニンテーション、物 総論	理		ける物理療法の役 整理し、理解する	割・分類、物	物理療法の対象	
	2	物理療	療法の臨床適応と	評価	物理療法の対	象となる病態の整	理、評価方法	去の確認する	
	3	温熱療			温熱療法の原 て	理、目的、生理学	色的効果と適	応・禁忌につい	
	4		§法各論:ホット/ 《ラフィン、赤外絲			の適応・禁忌、実			
	5	寒冷療	寮法		寒冷療法の原	ī理、目的、生理学 ————————————————————————————————————	学的効果と適用	応・禁忌につい	
	6		法各論			5の適応・禁忌・第			
	7	電磁源	皮療法 (超短波、	極超	施手順につい				
	8	超音》	皮療法		施手順につい				
	9	電気刺	削激療法			の原理、目的、生 スク管理について	:埋字的効果	と週心・禁忌、	
	10	電気刺	削激療法各論			対療法の適応・禁忌			
	11	光線療	· · · · · · · · · · · · · ·		手順について				
	12	牽引獲	§法、 圧迫療法		手順について 圧迫療法の原 手順について	理、目的、生理学	学的効果と適ん	応・禁忌、実施	
	13	水治療	· · · · · · · · · · · · · ·		水治療法の原	ī理、目的、生理学 ————————————————————————————————————	学的効果と適	応・禁忌につい	
	14		法各論		各種水治療法	の適応・禁忌、実	『施手順につい	,17	
	15	物理源 め	景法の臨床応用、	まと	物理療法の臨	床応用について			

授業科目	物理療法B	担当教員	吉田智	子	市内整形外科病院にて10年以上
		実務 経験	有:■	無:□	勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法研究法	去IIA	担当教員	横野裕行		
対象年次・学期	2年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態				授業回数	15回	時間数	
授業目的				・ 温床で起こる様々な問 すること、統計処理に			5 る。
到達目標			を理解し、自ら疑問できること	問を解決しようと行動 :	かできること		
テキスト・ 参考図書等	なしなし						
	評価	方法	評価割合(%)		評価基	 準	
	試験		60				
評価方法・	レポート	\	0	ポスター発表40点と	定期試験60点に	て評定し、合計	├60点以上を合
評価基準	小テスト	\	0	格とする。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	00 FN I + 0+	5 . + =
	提出物		0	合計60点未満の場合	まは、 再試験にて	60点以上を合格	沓とする。
	その他		40				
履修上の 留意事項	自ら能動	動的に調	■べる、考えること	が必要な授業です。			
履修主題・	回		履修主題		履傾	多内容	
履修内容	1	オリエ 方法(ンテーション・研 ①	F究 理学療法士か	が研究する必要性	・方法を知る	
	2	研究方	5法②	理学療法士か	が研究する必要性	・方法を知る	
	3	研究方	5法③	信頼性・妥当	当性、研究デザイ	ンについて理解	!する
	4	統計学	Ž ①	母集団・標本	ト・統計学的推論	・ 尺度について	て理解する
	5	統計学	Ž (2)	散らばり、標	準偏差についてヨ	里解する	
	6	統計学	Ž 3	正規分布、/ する	パラメトリック・ <i>.</i>	ノンパラメトリッ	ックについて理解
	7	統計学	Ž 4		対応がないとは作 ⁻ る	可か、差がある	・関係があると
	8	統計学	\$ (5)	感度・特異度 て理解する	き、陰性・陽性適	回中率、偽陽性	・偽陰性につい
	9	研究記	†画を 立 てよう	自身が知りた	いことを考え・ま	まとめる	
	10	研究記	†画を立てよう	自身が知りた	 :いことを 考 え・a	まとめる	
	11	研究言	 画を立てよう	自身が知りた		 まとめる	
	12	研究記	 画を立てよう	自身が知りた		 まとめる	
	13	研究記	 画を立てよう	自身が知りた		 まとめる	
	14	研究記	 †画を立てよう	自身が知りた	 :いことを 考 え・a	 まとめる	
	1	1					

授業科目	理学療法研究法IIA	担当教員	横野裕行		道内・外の病院で理学療法士と して8年勤務
		実務 経験	有 : ■	無:□	U CO+3/1/17
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	理学療法	法研究》	去IIB	担当教員	横野・裕行		
対象年次・学期	2年・前	前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態				授業回数	15回	時間数	
授業目的				- 塩床で起こる様々な問 すること、統計処理に			5 る。
到達目標			を理解し、自ら疑り すを理解できること	問を解決しようと行動 :	かできること		
テキスト・ 参考図書等	なしなし						
	評価	方法	評価割合(%)		評価基	<u></u>	
	試験		60				
評価方法・	レポート	\	0	ポスター発表40点と	定期試験60点に	て評定し、合計	├60点以上を合
評価基準	小テスト	<u> </u>	0	格とする。 合計60点未満の場合	>は ・	eo루N Fキ수t	タレナフ
	提出物		0	百計60点不過の場合	ゴス、 一一 八 映に ()	00点以上を百作	音とりる ⊙
	その他		40				
履修上の 留意事項	自ら能動	動的に調	べる、考えること	たが 必要な授業です 。			
履修主題・	回		履修主題		履傾	冬内容	
履修内容	1	オリエ 方法(ニンテーション・研 ①	F究 理学療法士カ	が研究する必要性	・方法を知る	
	2	研究方	5法②	理学療法士か	「研究する必要性	・方法を知る	
	3	研究方	5法③	信頼性・妥当	当性、研究デザイ	ンについて理解	!する
	4	統計学	± 1	母集団・標本	と・統計学的推論	・ 尺度について	て理解する
	5	統計学	22	散らばり、標	準偏差についてヨ	理解する	
	6	統計学	ź ③	正規分布、/ する	パラメトリック・ <i>.</i>	ノンパラメトリ	ックについて理解
	7	統計等	2 4)		対応がないとは作ってる	可か、差がある	・関係があると
	8	統計学	2 (5)	感度・特異原 て理解する	き、陰性・陽性道	恒中率、偽陽性	・偽陰性につい
	9	研究詞	†画を 立 てよう	自身が知りた	:いことを 考 え・a	まとめる	
	10	研究詞	十画を立てよう	自身が知りた	:いことを 考 え・a	まとめる	
	11	研究記	†画を立てよう	自身が知りた	:いことを 考 え・a	まとめる	
	12	研究記	 画を立てよう	自身が知りた	:いことを 考 え・a	まとめる	
	13	研究記	 画を立てよう	自身が知りた		まとめる	
	14	研究記	 画を立てよう	自身が知りた	····ことを考え・a	まとめる	

授業科目	理学療法研究法IIB	担当教員	横野裕行	Ť	道内・外の病院で理学療法士と して8年勤務
		実務 経験	有:■	無:□	しての十重がわ
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

対象年次・学期 2年・通年 必修・選択区分 必修 単位数 授業形態 授業回数 30回 時間数 60時 日本 1.解剖学・運動学で学習した内容と評価の意義・方法を関連付けて考えることができる。	できる。 。
授業形態 授業回数 30回 時間数 60時間 60時間 50時間 60時間 60時間	できる。 。
投業目的 2.患者様に検査を実施するにあたり、必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。	•
アキスト・ 参考図書等 理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [DVD付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像 評価方法 評価割合(%) 評価基準 試験 100 レポート 0 小テスト 0 提出物 0 その他 0 で合格) で定期試験 (筆記:前期中間・後期中間・後期の3回の合 以上で合格) 解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服 すること。	う算が60%
新・徒手筋力検査法 原著第10版 [DVD付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像 評価方法 評価方法 評価割合(%) 評価基準 試験 100 レポート の 小テスト の 提出物 の その他 の では、	う算が60%
試験 100	言算が60%
評価方法・	言算が60%
・定期試験 (筆記:前期中間・後期中間・後期の3回の合	含算が60%
ボデスト 0 提出物 0 その他 0 履修上の 解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服 すること。	-
その他 0 履修上の 留意事項 解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服すること。	
履修上の 解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服留意事項 すること。	
留意事項 すること。	 服装を田音
	以农仓用品
履修主題 - 履修主題 履修内容	
履修内容 1 1年次内容の復習 形態計測、ROM - T「上肢」下肢」	
2 1年次内容の復習 形態計測、ROM - T「上肢」下肢」	
3 評価の意義 end feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについ	いて学ぶ
4 評価の意義	
5 徒手筋力テスト 徒手筋力テストについて学ぶ	
6 徒手筋力テスト 徒手筋力テストについて学ぶ	
7 徒手筋力テスト 徒手筋力テストについて学ぶ	
8 徒手筋力テスト 徒手筋力テストについて学ぶ	
9 整形外科特殊テスト 整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ	,,,
10 整形外科特殊テスト 整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ	,,,
11 感覚検査・疼痛検査 表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ	.3
12 感覚検査・疼痛検査 表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ	
13 深部腱反射テスト 深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ	
14 深部腱反射テスト 深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ	
15 筋緊張テスト 筋緊張の検査法について学ぶ	
16 筋緊張テスト 筋緊張の検査法について学ぶ	
17 バランス検査、パフォーマ バランス検査法、パフォーマンス検査法について学。	<u> </u>
18 バランス検査、パフォーマ バランス検査法、パフォーマンス検査法について学。	<u> </u>
19 協調性検査 失調について学ぶ	
20 協調性検査 失調について学ぶ	
21 片麻痺の運動機能 Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査、SIASにつ	 ンいて学ぶ

22	片麻痺の運動機能	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査、SIASについて学ぶ
23	 脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
24	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
25	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
26	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
27	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
28	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
29	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
30	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う

授業科目	理学療法評価法IIA	担当教員	他		
IXXIII	ᅸᅷᄻᆛᇧᄼᅭᇚᆙᆒᄼᆈ	実務 経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	理学療活	去評価沒	去IIB		担当教員	武田 祐貴			
対象年次・学期	2年・通年 必修			と 選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30回	時間数	60時間	
授業目的	2.患者3.1つの	1.解剖学・運動学で学習した内容と評価の意義・方法を関連付けて考えることができる。 2.患者さんに検査実施にあたり、必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 3.1つの検査結果において異常や制限の原因を明らかにできる(検査から考えられる問題)。 4.複数の検査項目から考えられる問題点を説明・記述できる(統合と解釈)。							
到達目標	各種検査法を理解し、統合と解釈ができる。								
テキスト・参考図書等	理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 [DVD付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像								
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポート		0	・定其	月試験 (筆記:	中間・前期・後期]3回の合算の	60%以上で合	
可順坐平	小テスト		0	格)	,				
	その他		0						
履修上の 留意事項	解剖・4		重動学の復習をし	て授業		要業は触診を行いや で表	すく、動きや	かすい服装を用意	
履修主題・	回		履修主題			履修	内容		
履修内容	1	1年次	内容の復習		形態計測、ROM - T「上肢」「下肢」				
	2	1年次	内容の復習		形態計測、ROM - T「上肢」下肢」				
	3	評価の	意義		end feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについて学ぶ				
	4	評価の	意義						
	5	徒手角	労力テスト		徒手筋力テス	トについて学ぶ			
	6	徒手角	カテスト		徒手筋力テストについて学ぶ				
	7	徒手角	カテスト		徒手筋力テストについて学ぶ				
	8	徒手角	カテスト		徒手筋力テストについて学ぶ				
	9	整形夘	ト科特殊テスト		整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ				
	10	整形列	ト科特殊テスト		整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ				
	11	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・	複合感覚・疼痛の	の検査法につ	いて学ぶ	
	12	感覚核	食査・疼痛検査		表在・深部・	複合感覚・疼痛の	の検査法につ	いて学ぶ	
	13	深部服	建反射テスト		深部腱反射・	病的反射の検査活	はについて学ん	<u>Š</u> ,	
	14		建反射テスト			病的反射の検査活	はについて学ん	<u>Š</u> ,	
	15		長テスト			法について学ぶ			
	16		長テスト		筋緊張の検査	i法について学ぶ			
	17	ンス検		ーマ バランス検査法、パフォーマンス検査法について学ぶ					
	18	ンス検		-マ		法、パフォーマン: 	 ス検査法につ	…て学ぶ	
	19	協調性	生検査 		失調について				
	20	協調性			失調について				
	21		東の運動機能			Stage・片麻痺機			
	22	片麻疹	車の運動機能		Brunnstrom	Stage・片麻痺機	能検査、SI.	ASについて学ぶ	

23	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
24	脳神経・高次脳機能検査、 呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
25	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
26	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
27	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
28	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
29	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
30	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う

授業科目	理学療法評価法IIB	担当教員	他		
IXXIII	T J MAN I MIANO	実務 経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	理学處	t評価法実習A	担当教員	武田 祐貴				
1文朱代十口	连子/京/2	な計画な关目へ	123					
対象年次・学期	2年・通	年	必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態			授業回数	23回	時間数	45時間		
授業目的	1.患者さんに、検査実施にあたり必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 2.各検査が患者さんにかける負荷を理解するとともに、患者さんの疲労に配慮することができる。 3.各検査手技を的確に実施できる。 4.検査や動作分析の結果を説明・記述ができる。							
到達目標	各種検査法および評価法を身につける。							
テキスト・参考図書等	新・徒手	は評価学 第6版補訂版 ∈筋力検査法 原著第10 ዾ療法学・作業療法学・≣		巻 脳画像				
	評価方	京法 評価割合(%)		評価基準				
	試験	100						
評価方法・	レポート			- -	±.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	L .		
評価基準	小テスト	-	・定期試験(実技:	2回の合算の平均6	割以上で合札	各)		
	提出物	0						
履修上の	C 17 .C	0 ・生理・運動学の復習をし						
留意事項		は触診を行いやすく、動き		ること。				
履修主題・	回	履修主題		履修内	內容			
履修内容	1	徒手筋力テスト	筋力を測定す	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ				
	2	徒手筋力テスト	筋力を測定す	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ				
	3	整形外科特殊テスト	整形外科特殊	整形外科特殊テストについて学ぶ				
	4	整形外科特殊テスト	整形外科特殊	*テストについて学,	ζï			
	5	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・	複合感覚の検査法	について学ぶ	5;		
	6	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・	複合感覚の検査法	について学ぶ	5."		
	7	筋緊張テスト	筋緊張の検査	法について学ぶ				
	8	筋緊張テスト		法について学ぶ				
	9	深部腱反射検査、病的反 検査	^{支射} 深部腱反射、	病的反射の検査法	について学ぶ	5,		
	10	深部腱反射検査、病的反 検査	深部腱反射、	病的反射の検査法				
	11	片麻痺機能検査		Stage・片麻痺機				
	12	片麻痺機能検査		Stage・片麻痺機	能検査につい	ハて学ぶ 		
	13	SIAS	SIASの方法は					
	14	SIAS	SIASの方法は					
	15	姿勢反射検査		至の方法を学ぶ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				
	16	姿勢反射検査		での方法を学ぶ				
	17	協調性検査		について学ぶ				
	18	協調性検査		まについて学ぶ				
	19	バランス検査、パフォー [・] ンス検査	ハフンス快宜	法、パフォーマンス	ス検査法につ	いて学ぶ		
	20	バランス検査、パフォー・ ンス検査	ハランス快宜	法、パフォーマンス	ス検査法につ	いて学ぶ		
	21	脳神経検査		について学ぶ				
	22	高次脳機能検査	高次機能検査	査法について学ぶ				

授業科目	理学療法評価法実習A	担当教員	他		
IXXIII		実務 経験	有:□	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	田学療 法	語評価法実習B	担当教員	武田 祐貴				
1X ** 11** D	生于/5/2		—————————————————————————————————————			·		
対象年次・学期	2年・通	年	必修・選択区分	必修	単位数			
授業形態			授業回数	23回	時間数	45時間		
授業目的	1.患者さんに、検査実施にあたり必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 2.各検査が患者さんにかける負荷を理解するとともに、患者さんの疲労に配慮することができる。 3.各検査手技を的確に実施できる。 4.検査や動作分析の結果を説明・記述ができる。							
到達目標	各種検査法および評価法を身につける。							
テキスト・参考図書等	新・徒手	評価学 第6版補訂版 節力検査法 原著第10 療法学・作業療法学・記		巻 脳画像				
	評価方	i法 評価割合(%)		評価基準				
	試験	100						
評価方法・	レポート	0				•		
評価基準	小テスト	-	・定期試験(実技:	2回の合算の平均6	割以上で合札	各)		
	提出物	0						
履修上の	C 17 .C	0 0 生理・運動学の復習をし	て授業に臨ホマレ					
留意事項		触診を行いやすく、動き		ること。				
履修主題・	回	履修主題		履修内	內容			
履修内容	1	徒手筋力テスト	筋力を測定す	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ				
	2	徒手筋力テスト	筋力を測定す	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ				
	3	整形外科特殊テスト	整形外科特殊	整形外科特殊テストについて学ぶ				
	4	整形外科特殊テスト	整形外科特殊	*テストについて学,	Š:			
	5	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・	複合感覚の検査法	について学ぶ	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
	6	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・	複合感覚の検査法	について学ぶ),		
	7	筋緊張テスト	筋緊張の検査	法について学ぶ				
		筋緊張テスト		法について学ぶ				
	1 0 1	深部腱反射検査、病的反検査	泛射 深部腱反射、	病的反射の検査法	について学ぶ			
	10	深部腱反射検査、病的原 検査	泛射 深部腱反射、	病的反射の検査法	について学ぶ	<u> </u>		
		片麻痺機能検査		Stage・片麻痺機				
	12	片麻痺機能検査		Stage・片麻痺機	能検査につい	ハて学ぶ		
	13	SIAS	SIASの方法は					
	-	SIAS	SIASの方法に					
		姿勢反射検査		査の方法を学ぶ				
	16	姿勢反射検査		≦の方法を学ぶ ─────				
	17	協調性検査		まについて学ぶ				
	18	協調性検査		まについて学ぶ 				
	19	バランス検査、パフォー [・] ンス検査	ハランス快宜	法、パフォーマンス	ス検査法につ	いて学ぶ		
	20	バランス検査、パフォー・ ンス検査	ハランス快宜	法、パフォーマンス		いて学ぶ		
	-	脳神経検査		について学ぶ				
	22	高次脳機能検査	高次機能検査	証法について学ぶ				

授業科目	理学療法評価法実習B	担当教員	他		
IXXIII	Z J M/AII IM/AXABO	実務 経験	有:□	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床運	動学A		担当教	員	浜本 浩一			
対象年次・学期	2年・通	手・通年 必		必修・選択	で分	必修	単位数		
授業形態				授業回	数	23回	時間数	45時間	
授業目的	・理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢、動作観察・分析ができる。①姿勢と動作の観察に必要な用語を使うことができる。②基本姿勢、基本動作、歩行の観察を記述することができる。③基本姿勢、基本動作、歩行について観察により発見した特徴を図示することができる。④基本姿勢、基本動作、歩行の観察からとその特徴や異常を発見し、その要因となる機能障害を導き出すことができる。						本動作、歩行の した特徴を図示		
到達目標	 正常な基本動作のメカニズムを理解し、動作分析を身につける。 								
テキスト・ 参考図書等	動作分類 観察に		末活用講座 〒分析						
	評価	方法	評価割合(%)			評価基	基準		
	試験		80						
評価方法・ 評価基準	レポート		0	前期・後期電	銀法棋皇	(筆記)、前期	期小テスト、 後期	ポスター発表を	
計测基準	小テスト		10	総合して評価		. () (133)			
	提出物 その他		10						
履修上の 留意事項		での実習		の理解には不可	可欠なの	で集中して取り)組むように。		
履修主題・			履修主題			履	修内容		
履修内容	1	動作分	分析の基礎1	臨床道 為)	重動学と	は 身体運動の	の分析方法 (運動	動・動作・行	
	2	動作分	分析の基礎2	日常生	日常生活活動と基本動作の関係				
	3	動作額	視察・動作分析	身の回	回り動作	の細分化			
	4	動作分	分析の基礎3	基本重	動作の評	価方法 (動作	・運動分析)		
	5	姿勢勧	規察・分析	臥位 ·	・座位・	立位、姿勢観	察・分析の実際		
	6	バイオ	-メカニクス1	体重心 外力)	ンの求め	方、身体に働・	〈力(重力、床&	反力、摩擦力、	
	7	バイオ	メカニクス2	力の台	計成と分	解、てこ、関節	節モーメントと筋	活動	
	8	グルー	プワーク1		授業方法の説明				
	9	グルー	プワーク2・3	寝返!	寝返り動作 寝返り動作のポスター発表				
	10	グルー	-プワーク2・3		動作の	ポスター発表			
	11	グルー	プワーク4・5・	, 6 起き上		作のポスター発	表		
	12	グルー	プワーク4・5・	・6 起き」		作のポスター発	表		
	13	グルー	プワーク4・5・	・6 起き」	起き上がり動作 起き上がり動作のポスター発表				
	14	グルー	プワーク7・8・	立ち上		作のポスター発			
	15	グルー	-プワーク7・8・	立た 上がり 動作					
	16	グルー	プワーク7・8・	• u -	ニがり動 ニがり動	作 作のポスター発	表		
	17	グルー	プワーク10・1	1 1 歩行					
	18	グルー	プワーク10・1	1 1 歩行	歩行				
	19	グルー	プワーク12	歩行の	Dポスタ				

20	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
21	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
22	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行
23	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行

授業科目	臨床運動学A	担当教員実務	浜本浩一		道内外の総合病院等で理学療法 士として16年間勤務
		経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		 担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	臨床運	動学B		‡	坦当教員	浜本 浩一						
対象年次・学期	2年・通	通年		必修	・選択区分	必修	単位数					
授業形態				j	受業回数	23回	時間数	45時間				
授業目的	析ができ 観察を記 すること	きる。① 記述する こができ	<mark>姿勢と動作の観</mark> 響	察に必要 基本姿 基本動	と と と と と と と は り は り は り は り り り り り り	理解し、健常者* ことができる。② :、歩行について観察からとその特徴	基本姿勢、基 1察により発見	本動作、歩行の した特徴を図示				
到達目標	正常な	基本動作	Fのメカニズムを理	関解し、	動作分析を身	につける。						
テキスト・ 参考図書等		動作分析 臨床活用講座 観察による歩行分析										
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準	Ē.					
	試験		80									
評価方法・	レポート		0	前期・	後期定期試験	:(筆記) 、前期小	/テスト. 後甘	まれる一発表を				
評価基準	小テスト	`	10		で評価する。	. (辛心 <i>)</i> 、 时9郑7	フカド、 仮糸	リッハノ 元48で				
	提出物		0									
履修上の 留意事項	その他 学生間 ⁻	での実習	10 10 での実習は、健常な動作の理解には不可欠なので集中して取り組むように。									
履修主題・			履修主題			履修	 内容					
履修工程。履修内容	1	動作分	 }析の基礎1		臨床運動学と 為)	は 身体運動の分	分析方法 (運動	動・動作・行				
	2	動作分	分析の基礎2		日常生活活動と基本動作の関係							
	3	動作額	視察・動作分析		身の回り動作の細分化							
	4	動作分	分析の基礎3		基本動作の評価方法 (動作・運動分析)							
	5	姿勢勧	視察・分析		臥位・座位・立位、姿勢観察・分析の実際							
	6	バイオ	-メカニクス1		体重心の求め方、身体に働く力 (重力、床反力、摩擦力、 外力)							
	7	バイオ	・メカニクス2		力の合成と分解、てこ、関節モーメントと筋活動							
	8	グルー	-プワーク1		授業方法の説明							
	9	グルー	-プワーク2・3			ポスター発表						
	10	グルー	-プワーク2・3			ポスター発表						
	11	グルー	プワーク4・5・	6		 作のポスター発表						
	12	グルー	プワーク4・5・	6		 作のポスター発表						
	13 グループワーク4・5・6			6		作のポスター発表						
					立ち上がり動作 立ち上がり動作のポスター発表							
	14	グルー	-プワーク7・8・	9	立ち上がり動	作のポスター発表						
	14		-プワーク7・8・ -プワーク7・8・		立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動	作のポスター発表 作 作のポスター発表						
		グルー		9	立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動	作のポスター発表 作 作のポスター発表						
	15	グルー	-プワーク7・8・	9 9	立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動	作のポスター発表 作 作のポスター発表 作						
	15	グルー グルー	-プワークフ・8・ -プワークフ・8・	9 9	立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動 立ち上がり動	作のポスター発表 作 作のポスター発表 作						

20	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
21	異常歩行の観察と分析	中枢神経障害の歩行
22	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行
23	異常動作の観察と分析	運動器障害の歩行

授業科目	臨床運動学B	担当教員実務	浜本浩一		道内外の総合病院等で理学療法 士として16年間勤務
		経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	臨床実習	習IA			担当教員	吉田	智子					
対象年次・学期	2年・後	期		必何	多・選択区分	必修		単位数				
授業形態					授業回数	90回		時間数	180時間			
授業目的	価の進む 下、見き んのニー	か方を学 学・模値 -ズやゴ	専門科目で学んで 習する。各種疾 放・実施することが 一ルを考察してい	患の症 が重要 く。	例に即して、各 な課題となる。	種の情	報収集及び	検査・測定	手順を指導者の			
到達目標	b) 各疾 c) 検査	a) 他職種からの情報を得ることができる。 b) 各疾患に合わせて検査・測定を実施できるようになる。 c) 検査結果を記録し、自ら調べ得る範囲内で異常の原因や各検査結果の関連性を考えることで、評価結果の妥当性を検討することができる。										
テキスト・ 参考図書等	臨床実習の手引き											
	評価フ	方法	評価割合(%)				評価基準					
	試験		0									
評価方法・	レポート		0	0 0 0 臨床実習指導者の評価と、実習報告会における発表内容を併せ、総 合的に評価する。								
評価基準	小テスト		0									
	提出物		20		APJICHT IM 9 00							
	その他		80									
履修上の 留意事項			うってから実習に関 対象者の気持ち <i>を</i>			って実	習を行って	ください。				
	回		履修主題				履修[内容				
履修主題・ 履修内容	1	【第1-5	5回】 8習前評価		総合的知識及 る。	び基本	的技能・態	度を備えてい	接するに当たり、 いることを 確認 す			
	2	【第6-8	38回】 ā床実習	各実習施設に赴き臨床教育者の指示のもと、病歴などにる医学的情報を収集したり、関節可動域や徒手筋力テスどの検査・測定を体験(見学・模倣・実践)し、評価編の妥当性や根拠のある評価に務める大切さを学習する。					徒手筋力テストな し、評価結果 学習する。			
	3		-90回】 [習後評価	実習における教育成果の判定には実習報告会の内容や提出 等について確認し、臨床教育者評価を参考に総合的に判定 る。								

授業科目	臨床実習IA	担当教員	塚田雅弘	Å	市内整形外科クリニックにて理学 療法士として15年以上勤務
		実務 経験	有∶■	無:□	INTALE OCT 3 T VILLIAM
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	臨床実	習IB			担当教員	吉田	智子				
対象年次・学期	2年・後) 期		必何	多・選択区分	実習		単位数			
授業形態					授業回数	90回		時間数	180時間		
授業目的	価の進む 下、見き	カ方を学 学・模伽	専門科目で学んで 習する。各種疾! 放・実施することだ 一ルを考察してい	息の症が重要	例に即して、各	種の情	報収集及び	検査・測定	手順を指導者の		
到達目標	a) 他職種からの情報を得ることができる。 b) 各疾患に合わせて検査・測定を実施できるようになる。 c) 検査結果を記録し、自ら調べ得る範囲内で異常の原因や各検査結果の関連性を考えることで、評価結果の妥当性を検討することができる。										
テキスト・ 参考図書等	臨床実習の手引き										
	評価が	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		0								
評価方法・	レポート		0	臨床実習指導者の評価と、実習報告会における発表内容を併せ、総							
評価基準	小テスト	`	0	臨床美質指导者の評価と、美質報告会における発表内容を併せ、総一合的に評価する。							
	提出物		20								
	その他		80								
履修上の 留意事項			うってから実習に関 対象者の気持ちを			って実	習を行って	ください。			
	回		履修主題				履修[内容			
履修主題· 履修内容	1	【第1-5 1.第	5回】 8習前評価		実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、 総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。						
	2	【第6-8 2.臨	38回】 ā床実習		る医学的情報 どの検査・測 の妥当性や根	習施設に赴き臨床教育者の指示のもと、病歴などに関す 学的情報を収集したり、関節可動域や徒手筋力テストが 検査・測定を体験(見学・模倣・実践)し、評価結果 当性や根拠のある評価に務める大切さを学習する。					
	3		-90回】 醫習後評価		実習における教育成果の判定には実習報告会の内容や提出等について確認し、臨床教育者評価を参考に総合的に判定る。						

授業科目	臨床実習IB	担当教員	塚田雅弘	Å	市内回復期病院にて理学療法士 として5年以上勤務
		実務経験	有∶■	無:□	20 00 17/12333
対象年次・学期	2年・後期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	臨床心	理学A			担当教員	久原	奈緒子				
対象年次・学期	2年・前	期		必何	多・選択区分	必須		単位数			
授業形態					授業回数	15回		時間数	30時間		
授業目的	法や心理	里査定の	○心理査定、事例 ○基本的な知識を ○いて身につけられ	修得す	ること、また精	神疾患	発達障害		いきます。心理療 数や特性をふまえ		
到達目標	要を知り	つ、対象	【限必要であろう! き者からの情報収! につけることがで	集の方	法 、また体験を	通して					
テキスト・ 参考図書等	教科書	教科書 よくわかる臨床心理学									
	評価が	方法	評価割合(%)				評価基準				
	試験		80								
評価方法・ 評価基準	レポート		0	440 A	- TEA	11 1-00 01	. AT /T				
計画基準	小テスト		0	正期記	式験80%、提出	 物20%	にて評価し	ます。			
	その他		20								
履修上の 留意事項		5教科書	に従って講義を達	≝めると	とは 限 りません <i>た</i>	が、事前	で一読下る	۲ ۱ ۱ ₀			
履修主題・	回		履修主題				履修P	容			
履修内容	1	臨床心 サーシ	♪理学の基礎理論 ション	、ア	各理論の概要、アサーション体験						
	2	発達院	寶害①		注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害						
	3	発達院	章害②		自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害						
	4	不安と	身体関連障害①)	気分障害(う	つ病・	双極性感情	障害)、睡眠	民障害		
	5	不安と	身体関連障害②)	薬物・アルコ	一ル依れ	字症、摂食	障害			
	6	不安と	身体関連障害③)	ストレス関連 障害)	障害 (ス	恐怖症、パ.	ニック障害、	PTSD、強迫性		
	7	不安と	身体関連障害④)	人格障害、紛	合失調	<u></u> 症				
	8	アセス	メント ①		心理検査法	(質問紙	法、投影法	、作業検査	法) の概要他		
	9	アセス	メント②		初回面接(イ	ンテータ	ケ面接) の	既要他			
	10	心理療	憲法①		支持的精神療	法、表	現療法				
	11	心理療	憲法②		訓練療法(自	律訓練	法)、行動	療法(系統的	的脱感作法)		
	12	心理療	寮法③		洞察療法(来	談者中	心療法) 、	認知療法			
	13	心理療	寮法 ④		その他の療法						
	14	心理療	寮法 ⑤		芸術療法(描 療法)	画療法	、サイコド	ラマ、音楽療	i法、コラージュ 		
	15	心理療	寮法 ⑥		ソーシャルス	キルトレ	・一二ング				

授業科目	協床心理学A	担当教員	 久原奈緒 	子	道内スクールカウンセラーとして
1文本11口	明小いユナハ	実務 経験	有:■	無:□	10年の実務経験あり
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	臨床心3	理学B			担当教員	久原 奈緒	7			
対象年次・学期	2年・前	期		必何	多・選択区分	必須	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	法や心理	理査定σ		修得す	ること、また精	神疾患、発達		いきます。心理療 徴や特性をふまえ		
到達目標	要を知り	つ、対象	【限必要であろうり 者からの情報収り につけることがで	集の方	法、また体験を	通して自己を				
テキスト・ 参考図書等	教科書	よくれ	かる臨床心理学							
	評価が	方法	評価割合(%)			評価	基準			
	試験		80							
評価方法・	レポート		0							
評価基準	小テスト		0	定期記	式験80%、提出	物20%にて評	価します。			
	提出物		20							
履修上の	その他		0							
留意事項	必 ずしも	数科書	に従って講義を追	生める と	とは 限 りません <i>t</i>	が、事前に一部	売下さい。			
履修主題・	回		履修主題				夏修内容			
履修内容	1	臨床心	が理学の基礎理論 ・ョン	、ア	各理論の概要、アサーション体験					
	2	発達障	害①		注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害					
	3	発達障	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害					
	4	不安と	身体関連障害①)	気分障害 (うつ病・双極性感情障害) 、睡眠障害					
	5	不安と	身体関連障害②)	薬物・アルコール依存症、摂食障害					
	6	不安と	身体関連障害③)	ストレス関連 障害)	障害(恐怖症	、パニック障害、	PTSD、強迫性		
	7	不安と	身体関連障害④)	人格障害、紛	合失調症				
	8	アセス	メント①		心理検査法	(質問紙法、投		法) の概要他		
	9	アセス	メント②		初回面接(イ	ンテーク面接	の概要他			
	10	心理療	養法①		支持的精神療	· 法、表現療法	<u> </u>			
	11	心理療	養法②		訓練療法(自	律訓練法) 、	行動療法 (系統	的脱感作法)		
	12	心理療	養法 ③		洞察療法(来	談者中心療法	(表) 、認知療法			
	13	心理療	養法 ④		その他の療法	(内観療法)				
	14	心理療	[法]		芸術療法(描療法)	画療法、サイ	コドラマ、音楽網	療法、コラージュ		
	15	心理療			ソーシャルス	キルトレーニン	· グ			

授業科目	臨床心理学B	担当教員	久原奈緒	子	道内スクールカウンセラーとして 10年の実務経験あり
		実務経験	有:■	無:□	10年の美術経歌のり
対象年次・学期	2年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	一般臨戶	末医学A			担当教員	鬼原 彰				
対象年次・学期	2年・後			必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	習するも	のであ D臨床系	る。 科目が含まれてa			Lラムに取り入れら となるので、さら				
到達目標	・下記の	の診療科	4目に関して、主	要な疾	患概要の理解を	:深める				
テキスト・参考図書等	PT · 01	r • s т	のための一般臨床	医学	第3版					
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>			
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポート		0	<u></u>	DEA					
計圖基準	小テスト	•	0	正期記	式験により評価					
	提出物 その他		0							
履修上の 留意事項		げ、予習	復習をすること							
履修主題・	回		履修主題			履修	内容			
履修内容	1	老年图	 E 学		老年医療とり	ハビリテーション				
	2	老年图	三学		老年医療とり	ハビリテーション				
	3	老年图			老年医療とリハビリテーション					
	4	脳外科	4		・主な脳神経系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)					
	5	脳外科	4		・外科総論(-					
	6	循環器	署外科		・外科総論(-	,				
	7	呼吸器	B 外科		・外科総論(-					
	8	消化器	居系外科 ————————————————————————————————————		・外科総論(-					
	9	消化器	器系外科		・外科総論(-					
	10	救命刺	対急		・心肺穌生法 法、救急処置 ・外科総論(-		义官埋、 中心的	静脈宋 養、 顆皿		
	11	皮膚科	4		解剖、生理、	症状、病態生理、	主な皮膚疾	患		
	12	泌尿器	器科			診断、検査、主				
	13	産婦人	 科		解剖、生理、 器疾患	妊娠、分娩、出	産、異常妊娠	と合併症、生殖		
	14	眼科			1	症状、病態生理、				
	15	耳鼻科	4		解剖、生理、 患	症状、病態生理、	、主な耳・鼻	・喉頭・咽頭疾		

授業科目	一般臨床医学A	担当教員	外部講師	ī	病院勤務の臨床医
		実務 経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	一般臨原	末医学B	3		担当教員	鬼原彰				
対象年次・学期	2年・後	・後期 必修			多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	習するも ・多く0	・臨床系科目の中で、内科学、精神医学などカリキュラムに取り入れられている科目以外の領域を学習するものである。 ・多くの臨床系科目が含まれており、要点のみの講義となるので、さらに他の成書を用いて学習を深めることが必要である。								
到達目標	・下記の	・下記の診療科目に関して、主要な疾患概要の理解を深める								
テキスト・参考図書等	PT · 01	r • s т	のための一般臨床	医学	第3版					
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>			
	試験		100							
評価方法・ 評価基準	レポート		0		±EA ±= ′=					
計圖基準	提出物	•	0	正期記	式験により評価					
	長田物 その他		0	\dashv						
履修上の 留意事項		げ、予習	復習をすること							
履修主題・	0		履修主題			履修内容				
履修内容	1	老年图	 š 学		老年医療とリハビリテーション					
	2	老年图	 §学		老年医療とリハビリテーション					
	3	老年图	 E 学		老年医療とリハビリテーション					
	4	脳外科	4		・主な脳神経系外科疾患とリハビリテーション・外科総論(一部)					
	5	脳外科	———— 각		・主な脳神経・外科総論(-	系外科疾患とリル 一部)	\ ビリテーショ	ン		
	6	循環器			・主な循環器 ・外科総論(-	景系外科疾患とリ/ −部)	\ ビリテーショ	ン		
	7	呼吸器			・外科総論(-					
	8	消化器	器系外科		・主な消化器系外科疾患とリハビリテーション ・外科総論(一部)					
	9	消化器	器系外科		・外科総論(-					
	10	救命刺	效急		・心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血 法、救急処置、ICU ・外科総論(一部)					
	11	皮膚科	¥		解剖、生理、	症状、病態生理	主な皮膚疾	患		
	12	泌尿器				診断、検査、主				
	13	産婦人	 【科		解剖、生理、妊娠、分娩、出産、異常妊娠と合併症、生殖 器疾患					
	14	眼科				症状、病態生理				
	15	耳鼻科			解剖、生理、 患	症状、病態生理	、主な耳・鼻	・喉頭・咽頭疾		

授業科目	一般臨床医学B	担当教員	外部講師	ī	病院勤務の臨床医
		実務 経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動学実	:習A			担当教員	横野	 裕行					
JXXIII						1823	1413	Υ				
対象年次・学期	2年・通年				き・選択区分	必修		単位数				
授業形態					授業回数	23回		時間数	45時間			
授業目的	① 実習 ② 実習 い分析力	理学療法士、作業療法士にとって運動時の身体の現象を捉え理解することは非常に重要である。 ① 実習を通して観察・測定・分析の各段階を体験し、理解を深める。 ② 実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、鋭察を心掛け、より深い分析力、考察力を身に付ける。 ③ 実験の一連の過程(目的・方法・結果・考察)について、標準的な書式に則って記載する能力を養う。										
到達目標		① 身体運動によって生じる諸現象の基本的事項について説明できる。② 実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載をすることができる。										
テキスト・ 参考図書等	基礎運動学 (第6版 補訂)											
	評価方	法	評価割合(%)				評価基準					
	試験		0									
評価方法・ 評価基準	レポート		100	レポー	-ト点100%							
	小テスト 提出物		0		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							
	をの他		0	-								
履修上の 留意事項	レポートに		-					 tすること。 拐	深究心 を持って取			
履修主題・	回		履修主題		履修内容							
履修内容	1 :	オリエ	ンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方							
	2	オリエ	ンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方							
	3	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	4	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	5	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	6	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	7	実習2			重心位置推定							
	8	実習2			重心位置推定							
	9	実習2			重心位置推定							
	10	実習2			重心位置推定							
	11	実習3			筋力測定							
	12	実習3			筋力測定							
	13	実習3			筋力測定							
	14	実習3			筋力測定							
	15	実習4			歩行分析							
	16) 実習 4			步行分析							
	17	17 実習 4			步行分析							
	18	実習 4			步行分析							
	19	実習 5			嫌気性代謝闘	関値の推	定 (呼気力	ゴス)				
	20	実習 5			嫌気性代謝閾値の推定 (呼気ガス)							
	21	実習 5			嫌気性代謝閾値の推定 (呼気ガス)							

22	実習5	嫌気性代謝閾値の推定 (呼気ガス)			
23	まとめ、フィードバック	まとめと復習			

授業科目	運動学実習A	担当教員	塚田雅弘	7	市内整形外科にて理学療法士と して20年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動学実	翌p			担当教員	横野	2公グラ					
1文末作日	建勤于天	———				1只±)*	וחו					
対象年次・学期	2年・通年				後・選択区分	必修		単位数				
授業形態					授業回数	23回		時間数	45時間			
授業目的	① 実習を ② 実習を い分析力。	理学療法士、作業療法士にとって運動時の身体の現象を捉え理解することは非常に重要である。 ① 実習を通して観察・測定・分析の各段階を体験し、理解を深める。 ② 実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、鋭察を心掛け、より深い分析力、考察力を身に付ける。 ③ 実験の一連の過程(目的・方法・結果・考察)について、標準的な書式に則って記載する能力を養う。										
到達目標	① 身体運動によって生じる諸現象の基本的事項について説明できる。② 実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載をすることができる。											
テキスト・ 参考図書等	基礎運動学 (第6版 補訂)											
	評価方法	法	評価割合(%)				評価基準					
	試験		0									
評価方法・ 評価基準	レポート		100	レポー	-ト点100%							
们顺坐十	小テスト 提出物		0	詳細に	こついては、初回のオリエンテーションで説明する。							
	その他		0	-								
履修上の 留意事項								すること。拐	深究心を持って取			
履修主題・			履修主題		履修内容							
履修内容	1 :	オリエ	ンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方							
	2	オリエ	ンテーション		授業オリエンテーション、レポート課題の書き方							
	3	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	4	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	5	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	6	実習 1			最大下酸素摂取量の推定 (心拍数)							
	7	実習2			重心位置推定							
	8	実習2			重心位置推定							
	9	実習2			重心位置推定							
	10	実習2			重心位置推定							
	11	実習3			筋力測定							
	12	実習3			筋力測定							
	13	実習3			筋力測定							
	14	実習3			筋力測定							
	15	実習4			歩行分析							
	16	実習4			歩行分析							
	17	17 実習 4			步行分析							
	18	8 実習4			步行分析							
	19	実習 5			嫌気性代謝闘	関値の推	定(呼気力	「ス)				
	20	実習 5			嫌気性代謝閾値の推定 (呼気ガス)							
	21	実習 5			嫌気性代謝閾値の推定 (呼気ガス)							

22	実習5	嫌気性代謝閾値の推定 (呼気ガス)			
23	まとめ、フィードバック	まとめと復習			

授業科目	運動学実習B	担当教員	塚田雅弘	Å	市内整形外科にて理学療法士と して20年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動器障害学A				担当教員	吉田 智子					
								r			
対象年次・学期	2年・通	通 年		必作	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間			
授業目的		PT・OTにとって安全で効果的な治療をするために必要不可欠な、疫学・発症メカニズム・代表的な 検査・治療法を運動器疾患の総論および各論を通じて学習し理解する。									
到達目標	① 総論として、整形外科領域における診断法・治療法・外傷学を学習・理解し、それぞれの要点について説明・記述ができる。 ② 各論として、各関節に代表的な運動器疾患の症状・発症メカニズム・検査・治療について説明・記述ができる										
テキスト・ 参考図書等	標準整	標準整形外科学 第15版									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準					
	試験		100								
評価方法・	レポート	<u> </u>	0	前期+	期および後期定期試験により評価する。						
評価基準	小テスト		0			により計画する。 の合計で総合評価とする。					
	提出物		0								
 履修上の	その他		0	0							
留意事項	積極的	に質問す	⁻ ること。								
履修主題・	回		履修主題		履修内容						
履修内容	1	整形列	卜科総論		診断・治療総論						
	2	疾患約	公論		外傷総論・軟部組織損傷 (末梢神経損傷・脱臼・靭帯損 傷)						
	3	疾患約	 総論		骨折						
	4	疾患約	公論		軟部組織・骨・関節の感染症						
	5	疾患約	公論		四肢循環障害の診察・診断						
	6	疾患約	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		代謝性骨疾患・骨腫瘍						
	7	疾患約	公論		関節リウマチ						
	8	疾患約	公論		变形性関節症						
	9	疾患各	5 論		足部・足関節疾患						
	10	疾患各論			膝関節疾患						
	11	疾患各論			股関節疾患						
	12	疾患各論			脊椎・胸郭疾患						
	13	疾患各	3 論		上肢疾患① (肩関節疾患)						
	14	疾患色	3 論		上肢疾患②	(肘・手関節疾患)					
	15	疾患色	3 論		上肢疾患③ (上肢のスポーツ障害)						

授業科目	運動器障害学A	担当教員	塚田雅弘	4	札幌市内の整形外科クリニックに て15年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動器	琴障害学B			担当教員	吉田 智子			
対象年次・学期	2年・通	通年			多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間	
授業目的						要不可欠な、疫学 で学習し理解する。	・発症メカニ	ズム・代表的な	
到達目標	ついてii ②各論	①総論として、整形外科領域における診断法・治療法・外傷学を学習・理解し、それぞれの要点について説明・記述ができる。 ②各論として、各関節に代表的な運動器疾患の症状・発症メカニズム・検査・治療について説明・記述ができる							
テキスト・ 参考図書等	標準整	標準整形外科学 第15版							
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		100						
評価方法・	レポート 0		前期+	シトバ後期完期	試験により証価士	z			
評価基準	小テスト 0			前期および後期定期試験により評価する。 前期および後期定期試験の合計で総合評価とする。					
		提出物 0							
 履修上の	その他		0						
留意事項	積極的	に質問す	ること。						
履修主題・	回		履修主題			履修[内容		
履修内容	1	整形列	卜科総論		診断・治療総論				
	2	疾患約	公論		外傷総論・軟部組織損傷 (末梢神経損傷・脱臼・靭帯損 傷)				
	3	疾患約	総論		骨折				
	4	疾患約	総論		軟部組織・骨・関節の感染症				
	5	疾患約	公論		四肢循環障害の診察・診断				
	6	疾患約	公論		代謝性骨疾患・骨腫瘍				
	7	疾患約	公論		関節リウマチ				
	8	疾患約	公論		变形性関節症				
	9	疾患各	5 論		足部・足関節	族患			
	10	疾患各論			膝関節疾患				
	11	疾患各論			股関節疾患				
	12	疾患各論			脊椎・胸郭疾患				
	13	疾患色	3 論		上肢疾患① (肩関節疾患)				
	14	疾患色	3 論		上肢疾患②	(肘・手関節疾患)			
	15	疾患色	3 論		上肢疾患③	(上肢のスポーツ障	害)		

授業科目	運動器障害学B	担当 教員 実務	塚田雅弘		札幌市内の整形外科クリニックに て15年勤務
		経験	有:■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	運動器隊	章害理学	学療法学A		担当教員	吉田 智子		
対象年次・学期	2年・後	・後期		必修・選択区分		必須	単位数	
授業形態					授業回数	15回	時間数	
授業目的						状・障害、解剖・道 負目の選択し、評価		
到達目標	2 . 基礎	知識を	基に評価項目を貧	首げ、 村	艮拠を説明でき	知識について記述る。 【、動作・生活との		
テキスト・参考図書等	15レクラ	チャーシ	療法学テキスト リーズ義肢学 全 第15版	運動器	障害理学療法等	学 第1版		
	評価方	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		100					
評価方法・	レポート		0		NEA			
評価基準	I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			定期記	期試験により評価する。			
	その他	出物 0						
 履修上の	23710		0 里学、運動学の復	型を		· }-		
留意事項			必要な授業の場					
履修主題・	回		履修主題		履修内容			
履修内容	1	運動器	客疾患理学療法の	基礎	運動器疾患理学療法の基礎			
	2	骨折(i)		骨折の理学療法(基礎知識~評価)			
	3	骨折(2)		骨折の理学療法(基礎知識~評価)			
	4	末梢神	神経障害		- 末梢神経障害と理学療法(基礎知識~評価)			
	5	変形性	上関節症 ①		変形性関節症	の理学療法(基礎)	知識~評価〕	
	6	変形性	上関節症②		変形性関節症	の理学療法(基礎)	知識~評価〕	
	7	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	11	捻挫、靭帯損	遺傷、脱臼の理学療	法(基礎知識	i)
	8	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	2	捻挫、靭帯損	遺傷、脱臼の理学療	法(評価)	
	9	腰部疫	::::::::::::::::::::::::::::::::::::::		腰部疾患の理	!学療法(基礎知識·	~評価〕	
	10	肩関節			肩関節疾患 <i>の</i>	理学療法(基礎知詞	 哉∼評価〕	
	11	切断(切断①		切断・総論、	切断のリハビリテ	ーション、切	 断の理学療法
	12	切断(-		切断・総論、	切断のリハビリテ	 ―ション、切	 断の理学療法
	13	切断(刀断③		切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法			
	14	関節リ	ウマチ①		関節リウマチ	 〔基礎知識から治療	まで〕	
	15	関節リ	· ウマチ②		関節リウマチ	 〔基礎知識から治療	まで〕	

授業科目	運動器障害理学療法学A	担当教員	塚田雅弘	Å	市内整形外科病院にて理学療法 士として15年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	200012333
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	運動器	障害理学	学療法学B		担当教員	吉田 智子		
対象年次・学期	2年・後) 期	H !		多・選択区分	必須	単位数	
授業形態					授業回数	15回	時間数	
授業目的						犬・障害、解剖・選 質目の選択し、評価		
到達目標	2.基礎	知識を	基に評価項目を勢	首げ、 村	見拠を説明でき.	知識について記述 る。 L、動作・生活との		
テキスト・参考図書等	15レクラ	チャーシ	療法学テキスト リーズ義肢学 学 第15版	運動器	障害理学療法等	学 第1版	-	
	評価を	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		100					
評価方法・	レポート 0							
評価基準		IE date			用試験により評価する。			
	提出物	61						
	その他・一般がは	<u> </u>	0 里学、運動学の復			. 1-		
留意事項			i子、運動子のis i必要な授業の場					
履修主題・			履修主題		履修内容			
履修内容	1	運動器	器疾患理学療法の	基礎	運動器疾患理学療法の基礎			
	2	骨折(1)		骨折の理学療法(基礎知識~評価)			
	3	骨折(2		骨折の理学療法(基礎知識~評価)			
	4	末梢神	神経障害		末梢神経障害と理学療法(基礎知識~評価)			
	5	変形性	性関節症①		変形性関節症	の理学療法(基礎知	口識~評価〕	
	6	変形性	生関節症②		変形性関節症	の理学療法(基礎知	口識~評価〕	
	7	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	11	捻挫、靭帯損	遺傷、脱臼の理学療	法(基礎知識)
	8	捻挫、	靭帯損傷、脱臼	2	捻挫、靭帯損	 遺傷、脱臼の理学療	:::::::::::::::::::::::::::::::::::::	
	9	腰部疫	::::::::::::::::::::::::::::::::::::::		腰部疾患の理	!学療法(基礎知識~	~評価〕	
	10	肩関節			肩関節疾患の	理学療法(基礎知詞	 哉∼評価〕	
	11	切断(<u>j</u>		切断・総論、	切断のリハビリテ	 _ション、切	 断の理学療法
	12	切断(切断②		切断・総論、	切断のリハビリテ	 _ション、切	 断の理学療法
	13	切断③			切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法			
	14	関節し	リウマチ①		関節リウマチ(基礎知識から治療まで)			
	15	関節し	リウマチ②		関節リウマチ		まで〕	

授業科目	運動器障害理学療法学B	担当教員	塚田雅弘	À	市内整形外科病院にて理学療法 士として15年間勤務
		実務経験	有:■	無:□	上として1944回動物
対象年次・学期	2年・後期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目	運動療法	去A			担当教員	元木 純			
対象年次・学期	2年・通	年		必他	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態				授業回数	30回	時間数	60時間		
授業目的						。この授業では運 実施に役立ててい		的な原則・方法	
到達目標	② 運動	の効果は	既要と背景、原貝 と弊害について、 こ対して運動療法	科学的	根拠にもとづし	ヽて説明できる。			
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第5版								
	評価方	法	評価割合(%)			評価基準	準		
	試験		100						
評価方法・ 評価基準	レポート		0	定期的	式験により評価				
	提出物		0	たが高	ぬえにみ ソゴゴЩ	ა ტ ^ი			
	その他		0						
履修上の 留意事項			類果の背景とし に知識を深めるこ		 学、生理学、j	重動学の知識が不	可欠である。	運動療法の履修	
履修主題・	回		履修主題			履修	内容		
履修内容	1	オリエ 療法σ	ンテーション、道)概念	重動	運動療法の概	[念 、この科目を	学ぶ目的を理解	解する。	
	2		寮法の歴史 、リス	ク管	リスク管理に	ついて学習する		重動療法実施時の	
	3	基本的	的運動		身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮 様式による内容から理解する				
	4	関節可	丁動域運動 、伸張	運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する				
	5	関節可	丁動域運動 、伸張	運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 運動、伸張運動の 目的、方法について学習する 正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域				
	6	関節可	丁動域運動、伸張	運動	運動、伸張運	動の 目的、	方法について	学習する	
	7	筋力增	曾強運動		筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、 筋力増強の目的と 方法について学習する				
	8	筋力增	曾強運動		筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、 筋力増強の目的と 方法について学習する				
	9	筋力增	曾強運動		筋力増強の目	学的機序、筋力 的と 方法につい	ハて学習する		
	10	筋力增	曾強運動			学的機序、筋力 的と 方法につし		強のメカニズム、	
	11	筋力增	曾強運動		筋収縮の生理 筋力増強の目	学的機序、筋力 的と 方法につし	低下と筋力増 ハて学習する		
	12	筋力增	曾強運動		筋力増強の目	学的機序、筋力 的と 方法につい	ハて学習する		
	13	筋力増強運動			筋力増強の目	学的機序、筋力 的と 方法につし	いて学習する		
	14	筋力増強運動			筋力増強の目	学的機序、筋力 的と 方法につし	ハて学習する		
	15	持久力増強運動			筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法につ いて学習する				
	16	持久力]増強運動		筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法につ いて学習する				
	17		D増強運動	1 ÷ A · -	いて学習する	\$身持久力、持久			
	18		川御と運動学習理 運動療法	に論に	運動制御と連 成について学		理解し、埋論(に基ずく練習の構 	

19	協調性運動障害に対する運 動療法	運動の協調性を保つための機序、協調性運動の目的と方法について学習する
20	バランス障害に対する運動 療法	バランス障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
21	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
22	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について学習する
23	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
24	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
25	痛みに対する運動療法	痛みの定義・原因、痛みに対する運動療法について学習する
26	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラム の組み立て方に ついて学習する
27	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
28	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラム の組み立て方に ついて学習する
29	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
30	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する

授業科目	運動療法A	担当教員	小野直也	ļ	市内回復期病院で理学療法士と して5年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	0 (1 1233)
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

	1					Υ				
授業科目	運動療法	法B			担当教員	元木 純				
対象年次・学期	2年・通	通年		必但	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30回	時間数	60時間		
授業目的						。この授業では運 実施に役立ててい		的な原則・方法		
到達目標	②運動	の効果	概要と背景、原見 と弊害について、 に対して運動療法	科学的]根拠にもとづい	ヽて説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第5版									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポート		0		DEA :-					
評価基準	小テスト		0	定期記	式験により評価	する。				
	提出物		0							
 履修上の		その他 0 0 重動療法の治療効果の背景として解				■動学の知識が不	 可欠である。	 運動療法の履修		
留意事項			に知識を深めるこ					~		
履修主題・	回		履修主題	77L	履修内容					
履修内容	1	オリエ 療法 <i>0</i>	ニンテーション、ji D <mark>概念</mark>	里虭	運動療法の概念、この科目を学ぶ目的を理解する。					
	2	運動源 理	奈法の歴史 、リス	ク管	運動療法の発展してきた歴史とその概念、運動療法実施時の リスク管理について学習する					
	3	基本的	勺運動			身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮 様式による内容から理解する				
	4	関節可	可動域運動、伸張 「動域運動、伸張	運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 運動、伸張運動の 目的、方法について学習する					
	5	関節可	可動域運動、伸張	運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 運動、伸張運動の 目的、方法について学習する					
	6	関節回	丁動域運動 、伸張	運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域 運動、伸張運動の 目的、方法について学習する					
	7	筋力均	曽強運動		筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、 筋力増強の目的と 方法について学習する					
	8	筋力均	曾強運動		筋力増強の目	学的機序、筋力(的と 方法につい	ヽて学習する			
	9	筋力均	曽強運動		筋力増強の目	学的機序、筋力(的と 方法につい	ヽて学習する			
	10	筋力均	曽強運動		筋力増強の目	学的機序、筋力(的と 方法につい	て学習する			
	11	筋力均	曽強運動		筋力増強の目	望学的機序、筋力(的と 方法につい	ヽて学習する			
	12	筋力均	曽強運動		筋力増強の目	望学的機序、筋力(的と 方法につい	ヽて学習する			
	13	筋力増強運動			筋力増強の目	学的機序、筋力(的と 方法につい	ヽて学習する			
	14	筋力増強運動			筋力増強の目	学的機序、筋力(的と 方法につい	て学習する			
	15	持久力	持久力増強運動		筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法につ いて学習する					
	16	持久力	力増強運動		筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する。 いて かんしゅう かんしゅ かんしゅう かんしゅ かんしゅう かんしゅう かんしゅん かんしん かんし					
	17		力増強運動		筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する					
	18		削御と運動学習理 (運動療法	論に	運動制御と運 成について学		理解し、理論(に基ずく練習の構		

19	協調性運動障害に対する運 動療法	運動の協調性を保つための機序、協調性運動の目的と方法について学習する
20	バランス障害に対する運動 療法	バランス障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
21	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
22	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について学習する
23	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
24	感覚障害・筋緊張異常に対 する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学 習する
25	痛みに対する運動療法	痛みの定義・原因、痛みに対する運動療法について学習する
26	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラム の組み立て方に ついて学習する
27	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
28	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラム の組み立て方に ついて学習する
29	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する
30	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方に ついて学習する

授業科目	運動療法B	担当教員	小野直也	ļ	市内回復期病院で理学療法士と して5年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	0 (1) 20 11
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動療法	法実習A			担当教員	元木 純				
対象年次・学期	2年・通	年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23回	時間数	45時間		
授業目的	この授業では運動療法で学習した内				こついて実習を	通して学び、理解	を深めていく	0		
到達目標	②各運	動療法	原則、目的、方法 の基本的な手技を こ対して立案した	身につ	け、対象者に		修正ができる			
テキスト・参考図書等	標準理等	学療法等	学 専門分野 運動]療法学	总総論 第5版					
	評価が	 方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポート	`	0							
評価基準	小テスト	`	0	実技詞	試験により評価	する。				
	提出物		0							
履修上の 留意事項			オレて፤	に 施が主となるが、運動療法は理学療法士が行なう根幹となる治 正確にかつ安全に実施できるよう、十分に練習すること。授業						
			<u> 履修主題</u>		履修内容					
履修主題・ 履修内容	1	基本的	 内運動、リスク管	理	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮 様式による内容を体験する。運動療法実施時のリスク管理に ついて実習する。					
	2	関節回	丁動域運動、伸張	運動	連動の目的、方法 について美質する。					
	3	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持 / 拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	4	関節回	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	5	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	6	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	7	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	8	筋力增	曾強運動		筋力増強運動	の目的と方法につ	いて実習する	3 .		
	9	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	10	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	11	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	12	持久力] 増強運動		持久力増強運	動の目的と方法は	こついて実習る	する。		
	13	持久力] 増強運動		持久力増強運	動の目的と方法に	こついて実習る	する。		
	14	持久力] 増強運動		持久力増強運動の目的と方法について実習する。					
	15 運動制御と運動学習理論 基づく運動療法 協調性運動障害に対する 動療法			論に	- 運動学習理論に基づく運動療法について実習する。					
					運 協調性改善運動の目的と方法について実習する。					
	17	バラン 療法	、ス障害に対する過	重動	バランス練習	の目的と方法を実	 習する。			
	18	姿勢障	章害に対する運動	療法	姿勢障害に対	する運動療法を実	置する。			
	19	発達と	運動療法		発達とその障	害、発達を促す運	動療法につい	て実習する。		
	20		章害・筋緊張異常 動療法	に対	感覚障害、筋	5緊張異常に対する	る運動療法を	実習する。		

21	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。				
22	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。				
23	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラム を実際に組み立て、実施する。				

授業科目	運動療法実習A	担当教員	小野直也	ļ.	市内回復期病院で理学療法士と して5年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動療法	法実習E	3		担当教員	元木 純		_		
対象年次・学期	2年・通	年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23回	時間数	45時間		
授業目的	この授業では運動療法で学習した内				こついて実習を	通して学び、理解	を深めていく	0		
到達目標	② 各運	動療法	原則、目的、方法 の基本的な手技を こ対して立案した	身につ	け、対象者に		修正ができる	Do		
テキスト・参考図書等	標準理等	学療法等	学 専門分野 運動]療法学	总総論 第5版					
	評価が	 方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		100							
評価方法・	レポート	`	0							
評価基準	小テスト	`	0	実技詞	試験により評価	する。				
	提出物		0							
履修上の 留意事項				オレて፤	実施が主となるが、運動療法は理学療法士が行なう根幹となる治 「正確にかつ安全に実施できるよう、十分に練習すること。授業					
			履修主題		履修内容					
履修主題・ 履修内容	1	基本的	対運動、リスク管	理	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮 様式による内容を体験する。運動療法実施時のリスク管理に ついて実習する。					
	2	関節可	丁動域運動、伸張	運動	連動の目的、方法 について美質する。					
	3	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持 / 拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	4	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	5	関節可	丁動域運動、伸張	運動	関節可動域を維持/拡大するための関節可動域運動、伸張 運動の目的、方法 について実習する。					
	6	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	7	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	8	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	9	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	10	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	11	筋力增	曾強運動		筋力増強運動の目的と方法について実習する。					
	12	持久力] 増強運動		持久力増強運	動の目的と方法に	こついて実習す	する。		
	13	持久力] 増強運動		持久力増強運	動の目的と方法に	こついて実習す	する。		
	14] 増強運動		持久力増強運動の目的と方法について実習する。					
	15 運動制御と運動学習理論 基づく運動療法 協調性運動障害に対する 動療法			論に	- 運動学習理論に基づく運動療法について実習する。					
					運 協調性改善運動の目的と方法について実習する。					
	17	バラン 療法	、ス障害に対する過	重動	バランス練習	の目的と方法を実	習する。			
	18	姿勢障	章害に対する運動	療法	姿勢障害に対	する運動療法を実	習する。			
	19	発達と	運動療法		発達とその障	害、発達を促す運	動療法につい	て実習する。		
	20		章害・筋緊張異常 動療法	'に対						

21	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。				
22	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。				
23	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラム を実際に組み立て、実施する。				

授業科目	運動療法実習B	担当教員実務	小野直也	ļ	市内回復期病院で理学療法士と して5年勤務
		経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

+₩.₩.₹./ □	解剖学実習A				+0.1/.**	+m = ##				
授業科目		美省A			担当教員	吉田 香織				
対象年次・学期	2年・i	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	23回	時間数	45時間		
授業目的	・理学療法の基礎になる骨・筋を 観察を通して、その構造と各器官					世等を観察し実習	『を行う。さら	- こ 解剖 された 人体		
到達目標	・骨や飼る。	筋をはじ	めとする人体臓器	め構え	造、名称や位置	および構造につい	ハて理解し説明]することができ		
テキスト・ 参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック 関節学ハンドブック									
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基	準			
	試験		100							
評価方法・	レポート		0	+ n=-						
評価基準	小テスト		0	試験は	こより評価する。					
	提出物		0							
履修上の 留意事項	↓ その他			_ 0						
	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	骨学第	E 習総論		オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習					
	2	骨学第	E習各論①	骨の名称や位置・構造について学習						
	3	骨学第			骨の名称や位置・構造について学習					
	4	胸腔·	・腹腔臓器①		・構造について学習					
	5	胸腔·	・腹腔臓器②		・構造について手目 ・小臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置 ・構造について学習					
	6	血管系	Ŕ		主な血管の位置・構造について					
	7	神経系	<u> </u>		中枢神経(脳・脊髄)の名称や位置・構造について					
	8	神経系	<u> </u>		中枢神経(脳	・脊髄)の名称や		ついて		
	9	神経系	k 2		末梢神経の名		について			
	10	神経系	* ②		末梢神経の名		について			
	11	筋学ョ	と習 ①		筋の名称や位	 ヹ゚゚゚゚゚゚゚゙゚゙゠ヸ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙ヹ゚゚゚゚゚゚゚ヹ゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚	て学習			
	12	筋学ョ	と習 ②		筋の名称や位	 ヹ゚゚゚゚゚゚゚゙゚゙゠ヸ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚ヹ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	て学習			
	13	筋学ョ	€習③		筋の名称や位	ヹ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゙゚゙゙゠ヸ゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	て学習			
	14	筋学到	€習④		筋の名称や位	· 「置・構造につい	て学習			
	15		学実習見学のオリエ ション・準備	エン						
	16	解剖 す よびま	ミ習見学の準備学 ことめ	解剖された人体を観察し 構造と各哭官の関係性について理						
1 17 1			実習見学の準備学 :とめ	習お	解剖された人体を観察」 構造と各哭官の関係性について					
	18	解剖詞	ミ習見学		解する、(ス	ケジュールの詳細	細は授業開始は			
	19	解剖軍	E 習見学		解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定) 解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)					

	20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	23 解剖実習見学	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目	解剖学実習A	担当教員	塚田雅弘	Å	札幌市内の整形外科クリニックに て15年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	解剖学	実習B			担当教員	吉田	香織			
対象年次・学期	2年・i	通年		必但	多・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	23回		時間数	45時間	
授業目的	I		基礎になる骨・筋 その構造と各器を			単等を観	察し実習を	行う。さらに	2解剖された人体	
到達目標	・骨や筋をはじめとする人体臓器の構造、名称や位置および構造について理解し説明することる。							することができ		
テキスト・ 参考図書等	カラー/ 筋学ハン 関節学/	レドブッ		ミクロ	1からマクロまて	<u>.</u>				
	評価が	方法	評価割合(%)				評価基準			
	試験		100							
評価方法・	レポート		0							
評価基準	小テスト	`	0	試験は	こより評価する。	,				
提出物			0							
履修上の 留意事項	その他									
履修主題・	0		履修主題		履修内容					
履修内容	1	骨学第			オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習					
	2	骨学第	 €習各論①		骨の名称や位置・構造について学習					
	3	骨学第	 €習各論②		骨の名称や位置・構造について学習					
	4	胸腔·	腹腔臓器①		心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置 ・構造について学習					
	5	胸腔·	腹腔臓器②		心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置 ・構造について学習					
	6	血管系	{		主な血管の位	置・構	造について			
	7	神経系	(1)		中枢神経(脳・脊髄)の名称や位置・構造について					
	8	神経系	<u></u>		中枢神経(脳	・脊髄)	の名称や位	置・構造につ	いて	
	9	神経系	(2)		末梢神経の名称や位置・構造について					
	10	神経系	(2)		末梢神経の名	称や位	置・構造に	ついて		
	11	筋学到	[智①		筋の名称や位	置・構	造について	学習		
	12	筋学到	[智②		筋の名称や位	置・構	造について	 学習		
	13	筋学軍	[習③		筋の名称や位	置・構	造について	学習		
	14	筋学軍	€習④		筋の名称や位	置・構	造について:	学習		
	15		学実習見学のオリ! ション・準備	エン	人体解剖学実習見学にあたってのオリエンテーションおよび 準備学習					
	16	解剖乳	ミ 習見学の準備学 :とめ	 習お	解剖された人体を観察し 構造と各界官の関係性について理				内容について整	
	17	解剖 よびま	ミ 習見学 の準備学 ことめ	習お	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解するなどの準備学習や各解剖実習で学んだ内容について整理し理解する学習				内容について整	
	18	解剖詞	€習見学						関係性について理 記配付予定)	
	19	解剖詞	ミ習見学		解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定) 解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)					

	20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	23 解剖実習見学	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、 (スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目	解剖学実習B	担当教員	塚田雅弘	Å	札幌市内の整形外科クリニックに て15年勤務
		実務経験	有∶■	無:□	
対象年次・学期	2年・通年	担当 教員			
授業形態		実務経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	情報科学	——— 学ⅡA			担当教員	笹谷 純代				
対象年次・学期	2年・前	——— 前期		必作	と・選択区分	必修	単位数			
授業形態						15回	時間数	30時間		
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsft Word、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、社会生活において必要となる、情報やデータの処理方法と操作方法、それらを有効活用するための知識を習得して、現代社会に適応していく能力を身につける。									
到達目標	3 Pow	① Wordを使ってレポートやポスターが作成できる。 ② Excelを使って集計表が作成できる。 ③ PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④ 情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。								
テキスト・ 参考図書等	30時間: Window		:ック 情報リテラ 応	シー	Office2016					
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>			
	試験		50							
評価方法・	レポート		0	,夂≑	式験の平均点50	10/				
評価基準	小テスト	`	0		は映の平均点50 1物50%) 70				
	提出物		50							
	その他		0							
履修上の 留意事項			で行うので時間ま を 使用 する。	でに着	i席していること	∠。②説明と実習	(実習がメイ)	ン)③テキスト		
履修主題・	回		履修主題			履修	内容			
履修内容	1	コンピット(ューターとインタ (序章)	一ネ	ネット社会で	のトラブル、回避	するために			
	2	文書(4 録)	化の応用 (第2章	付	ビジネス文書	の基礎知識				
	3	文書化	との応用(第2章7)	長文作成をサ	ポートする				
	4	文書化	との応用 (プリント)	住所録作成、	差し込み印刷、	はがき印刷			
	5	文書化	との応用 (プリント)	名刺作成、宛	名ラベル作成				
	6	文書化	どの応用 (プリント)	ポスター作製	`				
	7	表計算 章5)	算ソフトの活用 (第	3	いろいろな数	式 (絶対参照、し	ろいろな関数	()		
	8	表計算 章7)	算ソフトの活用 (第		データベース	の利用(並べ替え	、データの抽 .、データの抽	出出)		
	9	章8)	第ソフトの活用 (第		Excelのデータ	タをWord文書に則	あけける			
	10	ント)	ショック かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい		ピボットテー	ブル				
	11	ント)	ショック かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい		さまざまな集	計表				
	12	ント)	第ソフトの活用 (フ		さまざまな集	計表				
	13	活用	ンテーションソフ (第4章7)		スライドショ	ーをサポートする	幾能			
	14	1	ンテーションソフ (第4章 付録)	トの	プレゼンテー	ションの基礎技能				
	15	まとめ)		総合演習、情	転モラル				

授業科目	情報科学IIA	担当教員	笹谷純代		IT講習、雇用促進等のインストラクターとして20年以上にわたり従
		実務経験	有∶■	無:□	事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	情報科等	——— 学∥B			担当教員	笹谷 純代				
対象年次・学期	2年・前	——— 前期		必作	**・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	15回	時間数	30時間		
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsft Word、Excel、PowerPointの 操作方法を身につけることを目的とする。また、社会生活において必要となる、情報やデータの処理 方法と操作方法、それらを有効活用するための知識を習得して、現代社会に適応していく能力を身に つける。									
到達目標	3 Pow	① Wordを使ってレポートやポスターが作成できる。 ② Excelを使って集計表が作成できる。 ③ PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④ 情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。								
テキスト・ 参考図書等	30時間 Windov		:ック 情報リテラ 応	シー	Office2016					
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準	<u> </u>			
	試験		50							
評価方法・	レポート	•	0	,夂意	式験の平均点50	10/				
評価基準	小テスト	`	0		は今50%) 70				
	提出物		50							
	その他		0							
履修上の 留意事項			で行うので時間ま を 使用 する。	でに着	i席していること 	∠。②説明と実習	(実習がメイ)	ン)③テキスト		
履修主題・	回		履修主題			履修	内容			
履修内容	1	コンピット(ューターとインタ (序章)	一ネ	ネット社会で	のトラブル、回避	するために			
	2	文書(4 録)	化の応用 (第2章	付	ビジネス文書	の基礎知識				
	3	文書化	どの応用(第2章7)	長文作成をサ	ポートする				
	4	文書化	との応用 (プリント)	住所録作成、	差し込み印刷、	よがき印刷			
	5	文書化	との応用 (プリント)	名刺作成、宛	2名ラベル作成				
	6	文書化	との応用 (プリント)	ポスター作製					
	7	表計算 章5)	第ソフトの活用 (第	3	いろいろな数	式 (絶対参照、し	いろいろな関数	()		
	8	章7)	算ソフトの活用 (第		データベース	の利用(並べ替え	_、データの抽 _、データの抽	出出)		
	9	章8)	アントの活用 (第		Excelのデータ	タをWord文書に則	ちり付ける			
	10	ント)	アントの活用 (フ		ピボットテー	ブル				
	11	ント)	算ソフトの活用 (フ		さまざまな集	計表				
	12	ント)	ジソフトの活用(フ		さまざまな集	計表				
	13	活用	ンテーションソフ (第4章7)		スライドショ	ーをサポートする	機能			
	14	1	ンテーションソフ (第4章 付録)	トの	プレゼンテー	ションの基礎技能				
	15	まとめ)		総合演習、情	報モラル				

授業科目	情報科学ⅡB	担当教員家務	笹谷純代		IT講習、雇用促進等のインストラクターとして20年以上にわたり従
		経験	有∶■	無:□	事
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	神経障	害学A			担当教員	中村	仁志夫		
対象年次・学期	2年・前期		必他	多・選択区分	必修		単位数		
授業形態					授業回数	15回		時間数	30時間
授業目的	に属し、 (リハヒ ともに、 毎回の打	ヒトの精神・身体活動は全身系としての神経系に負うところが大きい。神経系の主要部分は非再生に属し、傷害された組織の機能 (機能障害) を回復、補填するには障害克服の基本戦略に基づく理(リハビリテーション計画) が重要である。その基軸となるべき神経学を主な疾患の特徴を把握するともに、毎回の授業後に提示される課題に対する回答の推敲を受けつつ、各自が充実した内容を修得することを目標とする。							
到達目標	2) 運動 3) 脳血 4) 神経 5) 脳腫	神経系 陰障害 変性疾 瘍や神	在と特性についての と感覚神経系の障 の病態を説明でき 患を例示し、説明 経筋疾患を例示し 態を理解し、その	害を係る。 すできる 説明で	列示し、説明で る。 ごきる。	きる。			
テキスト・ 参考図書等	・標準3	理学療法	る」第7巻 脳・神総 法学・作業療法学 のための病理学」	専門基	基礎分野 「神経	区内科学.		(医学書院)	
	評価が	方法	評価割合(%)				評価基準		
	試験		42						
評価方法・	レポート	小テスト 0 ついての添削と評価 (70点満点) および マヤは (((7 つ 点 満 点) の は (7 つ 点 過 点) の は (7 つ 点) の は (7 つ ක) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は (7 つ a) の は		ポート 0 毎回のカード (小課題の演習と理解内容の確認及び質問と					質問と回答) に
評価基準	3 7 7 1 1			字期計験(第2)、50七漢字)のは続い合われて合体的部		的評価レナス			
	提出物		58	作 别 i	以一般(羊品)の	/黑心黑/	ひかんだり	ロわせて主件	vanumに A 少。
	その他	124 - 1	0	۰۵ ــ معد	n.= \(\text{\text{\$-1}} \)				
履修上の 留意事項	2)解剖 3)新聞 4)主要 5)毎回	学・生 や雑誌 な英単 のカー	(特に第19章) も 理学の知識を常に の病気や医療関係 語については和名 ドは各自の努力に ホからも極力避ける	参照す の記事 だけで よって	けること。 ■をよく読むこ∂ はなく、英語名 作成し、友達の	ここよる			な自ら考察する
			履修主題				履修内	內容	
履修主題・ 履修内容	1	史にま 握、	・医療史、神経学 らける重要人物の打 命理の基本		シング、変性 発見者ハンチ ラー、X線の:	性認知症 ントン、 父レント	Eの父アル 看護の母: ゲン、錐体	ツハイマー、 ナイチンゲー <i>。</i> 体外路系の提	脳外科の父クッ 遺伝性舞踏病の ル、教育者オス 唱者平澤興らの 、行動する際の
	2		解剖学(1)中枢神 基本的構成	Þ 経	脳幹の範囲、 の脳の特性	脳機能の	の局在、優	位半球と劣化	立半球、日本人
	3	神経角 支える	解剖学 (2) 脳の働 機構の実態				、感覚路、	脳血管系の	解剖、髄液循
	4	身臓 器 バック		ード	自律神経系、	脊髄の角	解剖、脳神	経症状の見る	方
	5	学的核	学的診断法 (1) 生 食査、症候と画像	との	と対象となる	疾患			学的検査の種類
	6		学的診断法 (2) 画 髄液所見などの類						どの基本的知識
	7	意識障 認識と	章害・運動麻痺の 全病態の理解	基本	意識障害の分	類、脳熱	死の定義、		#体路のレベル
	8	候を示	各徴候と錐体外路 そす変性疾患		ーキンソン症候群				
	9	舞踏選 変性変	運動や運動失調を 実患	示す 	ハンチントン病、脊髄小脳変性症など (多系統萎縮症を含む) の症候と分類				

10	失語症および認知症の分類 とその内容	失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など の診断と治療
11	脳血管障害の種々相と対策	脳梗塞 (脳血栓と脳塞栓) 、脳出血、くも膜下出血、脳動 脈瘤など
12	脳腫瘍の分類と悪性度およ び経過、感染性疾患	グリオーマと非グリオーマ (髄膜腫ほか) 、母斑症
13	神経難病 (1) 炎症と免疫、脱髄疾患、脊髄空洞症などの成因	髄膜炎・脳炎、多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、 脊髄空洞症、代謝異常
14	神経難病 (2) 神経筋疾 患、栄養障害性病態など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害と中毒、ミト コンドリア脳筋症など
15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病とBSE、臨床神経学の今後の課題

授業科目	神経障害学A	担当教員	中村仁志	夫	新潟大学脳研究所で7年間研究の 後、北海道大学で神経病理学に
JAKITH	ITMLF# EI J T	実務 経験	有:■	無:□	携わり、25年以上各養成校で教 員として勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			

授業科目	神経障害学E	}		担当教員	中村 仁志:	夫				
対象年次・学期	2年・前期		必值	冬・選択区分	必修	単位数				
授業形態				授業回数	15回	時間数	30時間			
授業目的	に属し、傷害 (リハビリテ ともに、 毎回の授業後	ヒトの精神・身体活動は全身系としての神経系に負うところが大きい。神経系の主要部分は非再生系に属し、傷害された組織の機能(機能障害)を回復、補填するには障害克服の基本戦略に基づく理念(リハビリテーション計画)が重要である。その基軸となるべき神経学を主な疾患の特徴を把握するとともに、毎回の授業後に提示される課題に対する回答の推敲を受けつつ、各自が充実した内容を修得することを目標とする。								
到達目標	2) 運動神経 3) 脳血管障 4) 神経変性 5) 脳腫瘍や	司在と特性について 系と感覚神経系の障 害の病態を説明でき 疾患を例示し、説明 神経筋疾患を例示し 病態を理解し、その	章害を例 うる。 月できる い説明で	列示し、説明で る。 ごきる。	ಕる。					
テキスト・ 参考図書等	・標準理学療	える」第7巻 脳・神絲 §法学・作業療法学 生のための病理学」	専門基	基礎分野 「神経	K内科学」 第	4版(医学書院)				
	評価方法	評価割合(%)			評価	基準				
	試験	42								
評価方法・ 評価基準	レポート	0				解内容の確認及び	質問と回答) に			
計画委告	小テスト 提出物	完期試験(筆記・50点満占)の成績と会わせて全				完期試験 (筆記・50占満占) の成績と合わせて全体的評価				
	提出物 58 その他 0									
履修上の 留意事項	2) 解剖学 3) 新聞やな 4) 主要な英 5) 毎回のカ	0本(特に第19章) ・生理学の知識を常 誰誌の病気や医療関 単語については和名 ードは各自の努力に 「味からも極力避ける	に参照 係の記 だけで よって	すること。 事をよく読むこ はなく、英語名 作成し、友達の	るによる習得に		為は自ら考察する			
	回	履修主題				覆修内容				
履修主題・ 履修内容	1 史に	学・医療史、神経学 とおける重要人物の技 原倫理の基本		シング、変性 発見者ハンチ ラー、X線の:	性認知症の父 ントン、 看護 父レントゲン、	の父シャルコー、 アルツハイマー、 の母ナイチンゲー 錐体外路系の提 療人として存在し	遺伝性舞踏病の ル、教育者オス 唱者平澤興らの			
		E解剖学(1)中枢和)基本的構成	経	脳幹の範囲、 の脳の特性	脳機能の局在	E、優位半球と劣作	位半球、日本人			
	3 支	経解剖学 (2) 脳の値 る機構の実態		錐体路、錐体 環、血液脳関		覚路、脳血管系の	解剖、髄液循			
		怪解剖学 (3) 脳から 遠器への指令とフィ− [・] ク		自律神経系、	脊髄の解剖、	脳神経症状の見	方			
		圣学的診断法 (1) 刍 対検査、症候と画像 と		運動調節・感覚の検査、腱反射など、生理学的検査の種類 と対象となる疾患			学的検査の種類			
	6 所見	圣学的診断法 (2) 画 見、髄液所見などの	意義	CTとMRIなど と応用(てん		凶波、髄液検査な	どの基本的知識			
		戦障害・運動麻痺の 戦と病態の理解	基本	意識障害の分	↑類、脳死の定	三義、運動麻痺と	錐体路のレベル			
	8 錐位 候を	体路徴候と錐体外路 ∻示す変性疾患		ーキンソン症	候群	重動ニューロン病	,			
	9 変性	皆運動や運動失調を 生疾患		ハンチントン病、脊髄小脳変性症など (多系統萎縮症を含む) の症候と分類						
		語症および認知症の? その内容	分類	失語症の分類 の診断と治療		}類と対策、アル!	ソハイマー病など			

11	脳血管障害の種々相と対策	脳梗塞 (脳血栓と脳塞栓) 、脳出血、くも膜下出血、脳動 脈瘤など
12	脳腫瘍の分類と悪性度およ び経過、感染性疾患	グリオーマと非グリオーマ (髄膜腫ほか) 、母斑症
13	神経難病 (1) 炎症と免 疫、脱髄疾患、脊髄空洞症 などの成因	髄膜炎・脳炎、多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、 脊髄空洞症、代謝異常
14	神経難病 (2) 神経筋疾 患、栄養障害性病態など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害と中毒、ミト コンドリア脳筋症など
15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病とBSE、臨床神経学の今後の課題

授業科目	神経障害学B	担当教員	中村仁志	夫	新潟大学脳研究所で7年間研究の 後、北海道大学で神経病理学に
JANTIA	THAT TO	実務 経験	有:■	無:□	携わり、25年以上各養成校で教 員として勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員			
授業形態		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			